

「地域活動に対する『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり」
についての検討報告書

平成30年11月12日

第六期多摩市自治推進委員会

はじめに

多摩市自治基本条例は、市民、一人ひとりの人権を尊重しつつ責任を分かち合うとともに、誰もがまちづくりに参画することによって、私たちのまちの自治を推進し、それぞれの持つ個性や能力がまちづくりに発揮される地域社会の実現をめざし、平成16年に制定された多摩市が定める最高規範です。

多摩市自治推進委員会は、多摩市自治基本条例第30条によって設置され、私たちのまちの自治の円滑な推進を図ることを目的とした委員会です。この自治推進委員会は、自治の推進に関する事項について自主的な活動を行い、市長に提言することができます。

これまで、平成17年1月の第一期自治推進委員会発足から第五期にわたり、自治の推進に関わる事項について審議してきました。

平成28年11月に設置した第六期自治推進委員会では、自治推進委員会発足から10年以上が経ち、人口減少、少子・高齢化の進展や市民の生活及び家庭環境の変化に伴う、市民自治やコミュニティ活動等の地域活動に対する市民のかかわり方の変化が生じていることから、今一度、市民自治の活性化に目を向け、その中でも最小のコミュニティである、地域活動への参加、そしてコミュニティ活動の活性化という視点で検討を行いました。

この現状に対して、第六期自治推進委員会では「地域活動に対する『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり」をテーマに、市民目線で市民自治の推進について議論し、検討してきた結果を、ここに報告します。

目次

1. これまでの自治推進委員会での議論	3
2. 第六期自治推進委員会での議論及び取り組み	
(1) 現状の把握	4
(2) 課題の提起	4
(3) テーマ設定	4
(4) 市民と地域活動団体に対する意識調査の取り組み	5
(5) アンケートの集計結果	5
ア 市民アンケートの集計結果	5
イ 地域活動団体アンケートの集計結果	6
3. 「地域活動に対する『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり」の提案	
(1) 市民に伝わりやすい情報発信	7
(2) 市民が参加しやすい団体運営づくり	9
(3) 地域活動団体向けのポイントガイドの作成	10
おわりに	11
～資料編～	
1. アンケート結果	
(1) 地域活動に関する市民参画アンケート	15
(2) 自治会・町会及び市民活動団体へのアンケート	29
2. 団体向けポイントガイド	48

1. これまでの自治推進委員会での議論

多摩市は、市民、一人ひとりの人権を尊重しつつ責任を分かち合うとともに、誰もがまちづくりに参画することによって、私たちのまちの自治を推進し、それぞれの持つ個性や能力がまちづくりに発揮される地域社会の実現をめざし、平成16年に「多摩市自治基本条例」を制定しました。

多摩市自治推進委員会は、私たちのまちの自治の円滑な推進を図ることを目的とし、多摩市自治基本条例第30条によって設置され、自治の推進に関する事項について自主的な活動を行い、市長への提言を行ってきました。

これまで、平成17年1月の第一期自治推進委員会発足から五期にわたり自治の推進に関わる事項については以下のように審議してきました。

第一期では、「行政評価への市民参画の手法について」をテーマに、当時試行中の行政評価を土台として「多摩市自治基本条例」に規定された評価への市民参画の観点等から、行政評価の手法等の標準的な指針について提案しました。

第二期では、今後の自治の推進に寄与することを目的として、行政評価に限らず市民の行政への参画の実態を明らかにするために、「多摩市市民参画白書」を作成し、市に提出しました。

第三期では、市民参画の中でもコミュニティ自治の重要性に着目し、「コミュニティの推進に向けた検討報告書」を作成し、多摩市のコミュニティ自治を推進するために何らかの仕掛けが必要であるという統一的な結論を得ました。仕掛けを何にするかまでは定まりませんでした。その仕掛けをコミュニティで話し合う場を設ける第一段階、必要に応じて課題を解決する組織を作る第二段階に分けて検討しました。

第四期では、コミュニティ自治推進の一つの手法として常設型の住民投票制度と個別設置型の住民投票制のメリット、デメリットの検証、先行事例の研究を通し、多摩市における住民投票制度のあり方について検討し、「住民投票制度のあり方についての検討報告書」を作成しました。

第五期では、「みんなが笑顔になる地域社会のあり方」をテーマに、市民自らがまちの自治を担う存在になるために一歩踏み出すことを目的として報告書「たまおが行く～多摩市の自治ものがたり～」を作成しました。より多くの方に気軽に手にして読めるように、これまでになくガイドブック風の編集とし、市内の書店でも販売しました。

第六期自治推進委員会においては、これまでの自治推進委員会での議論や自治推進委員会発足から10年以上が経ち、社会状況の変化が生じている現状を踏まえ、地域活動への参加及びコミュニティ活動の活性化の視点で検討しました。

2. 第六期自治推進委員会での議論及び取り組み

(1) 現状の把握

多摩市役所の各部署が実施した事業の市民参画状況調査（市民参加を募り、市民の意見等を聞く機会を設けている事業で、審議会・懇談会、パブリックコメント、アンケート、市民説明会等を実施した結果調査）での実績によれば、実施事業によって市民の関心の度合いは異なるものの、パブリックコメントの市民意見が0件という事案もあり、市民の行政に対する関心が希薄で市民参画の実態が少ないことが分かりました。また平成28年11月に実施した「地域活動団体^(※1)アンケート」の結果では、地域的なつながりを基盤とする自治会・町会等においても、同じ目的や関心を持つ人の集まりであるNPO法人等の市民活動団体においても、会員の新規加入数の減少や高齢化による活動量の減少等が課題として挙げられており、加えて自治会・町会では加入率の減少も問題となっています。

(2) 課題の提起

市民参画や地域活動団体が抱える課題を探るため、行政や地域活動団体が行っている市民参画の推進の実施状況を基に、現在起こっている地域活動に対する関心の希薄化や地域活動団体への新規加入数の減少について以下のように議論しました。

- ◆ 電子媒体の普及で多種多様な情報があふれる現代の情報化社会において、行政や地域活動団体の情報が市民へうまく伝わっておらず、現在の地域活動団体の活動が市民に浸透していないのではないか
- ◆ 地域への関わりや地域活動への参加等に必要性を感じていない市民が増加し、強制感や負担感等のマイナスイメージがあるのではないか
- ◆ 活動へ参加する市民が固定化してしまい、新規メンバーの加入や中心となる人財の育成等、担い手の発掘・育成・入れ替わりができていないのではないか

(3) テーマ設定

市民参画の活性化に向けては、広く多くの市民が地域活動へ参加することが大切であるものの、地域活動団体の会員の新規加入数が減少しており、市民の地域活動に対するイメージと次世代の担い手が必要な地域活動団体の参加推進の活動

(※1) 本報告書では、地域的なつながりを基盤とする自治会・町会やPTA等を地縁団体とも呼び、同じ目的や関心を持つ人の集まりを市民活動団体もしくは知縁（知的好奇心の縁）団体と呼ぶ。両者を総称して「地域活動団体」と表記する。

にさまざまなギャップが生じていると考えられます。

第六期委員会では、地域への関わりや地域活動への参加等を推進するために、「地域活動に対する『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり」をテーマに、主に市民の地域活動団体に対する参加を活性化させる手法について検討しました。

(4) 市民と地域活動団体に対する意識調査の取り組み

これまでの地域活動や市民参画における現状把握や課題提起の議論を踏まえ、市民と地域活動団体の考え方のギャップから、地域活動団体へ『気づき』と『きっかけ』の仕掛けについての手法を提案することを今期の活動の目的としました。

まず市民及び地域活動団体に対してアンケートを実施し、市民が持つ市民参画のイメージと地域活動団体の活動状況、新規加入、担い手の必要性等の現状と課題を分析しました。

市民活動に関する市民参画アンケート（以下、「市民アンケート」という。）は、次世代の地域活動の担い手が30歳台から50歳台の市民が中心となることを委員会で議論したため、調査対象を30歳台から50歳台とし、無作為抽出により行いました（本報告書15ページ参照）。また併せて、地域活動団体へのアンケート（以下、「地域活動団体アンケート」という。）については、自治会・町会、「2016年度版 地域デビュー手引書 市民活動団体紹介編」及び東京都公式ホームページにて紹介されている地域活動団体より団体の活動内容をもとにバランスに考慮して抽出して実施しました（本報告書29ページ参照）。

(5) アンケートの集計結果

ア. 市民アンケートの集計結果

市民アンケートの結果では、市民が希望する情報の発信方法については、ウェブサイトやSNS等の電子媒体を活用してほしいとの希望が多くあった一方で、チラシの戸別配布や、駅やバス停等、市民の目に付くところでの掲示等、受動的に目に見えるような紙媒体等の活用の希望も多くありました。

また、これまでに地域活動に参加したことがない市民の「参加しない理由」としては、主に以下のような意見が挙げられ、地域活動に関する告知が伝わっていないことや参加への前向きな関心が希薄していることが改めて確認できました。

- ◆地域活動団体を知らなかった
- ◆関心がない
- ◆入会方法がわからない
- ◆仕事や子育てで忙しい
- ◆活動の強制や会費等のマイナスイメージ

また、地域活動への参加経験者への質問では、「若手・新たな担い手の必要性」について7割が必要であると回答されました。

更に、市民が地域活動団体に望む運営体制としては、以下の意見が挙げられ、柔軟な団体運営が必要であることが明らかになりました。

- ◆任意・自由に参加できる・気軽に参加できる
- ◆活動内容が明確である
- ◆活動への負担が少ないこと（金銭面・活動頻度等）
- ◆会員範囲が限定されず、幅広く参加できること（家族での参加等）
- ◆入会に関して閉鎖的でなく、歓迎感があること
- ◆自分の能力や得意なことを活かせる活動であること

イ. 地域活動団体アンケートの集計結果

地域活動団体アンケートの結果では、会員の新規加入や会員数の増加を希望する団体は、自治会・町会、市民活動団体ともに7割を超えました。その中で、活動内容の可視化や柔軟な参加体制、加入の受け入れ体制について工夫していると回答した地域活動団体も多く、実施した工夫として以下のことが挙げられました。

- ◆活動頻度や時間を調整し、参加しやすい環境の整備
- ◆強制的ではなく、可能な範囲での参加体制
- ◆入会前に、実際に体験してもらい、その団体について知ってもらう
- ◆活動内容の公開
- ◆チラシの配布
- ◆たま広報や団体の広報誌、掲示板等でPR
- ◆ウェブやSNSの活用

市民活動団体では、多くの団体において、団体のホームページ等を開設し、電子媒体で情報発信していました。また団体によって、電子媒体での周知に加え個別配布等の工夫を行っているところも見受けられました。

3. 「地域活動に対する『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり」の提案

市民アンケート、地域活動団体アンケートの結果により、市民が求めている情報提供の方法や地域活動団体へのマイナスイメージを払拭するために、各団体がさまざまな工夫を行っていることが判明しました。他方、すでに議論したとおり、情報が市民へうまく伝わってなく、現在の地域活動団体の活動内容が市民に周知されていないこと、地域への関わりや地域活動への参加等に必要性を感じていない市民の増加、強制感等のマイナスイメージがあることが改めて認識できました。つまり、情報発信と情報収集のミスマッチと、運営方法のミスマッチの2つのミスマッチがあることが分かりました。

この結果を踏まえ、第六期自治推進委員会では、市民の地域活動への参加を推進するために、活動の受け入れ側である地域活動団体に向けて、市民が地域活動に『気づき』、地域活動に踏み出す『きっかけ』となる仕掛けづくり、すなわち両者のミスマッチを解消するための「情報発信・提供」及び「団体の運営体制」について提案します。

(1) 市民に伝わりやすい情報発信

地域活動団体が様々な工夫を凝らしている「情報発信」と市民が求めている「情報」にミスマッチが生じていることや、行政の情報発信でも、市民参画の推進のため「地域デビュー手引書」の発行や、各公共施設において各種チラシを置き情報発信をしているものの、紙媒体が中心であること、対象となる市民が明確でないこと、内容にあまり変化がないこと等もあり、これらの発行物についてあまり浸透していないことが見受けられます。

市民アンケート結果からもわかるように、情報収集方法は年代等によっても違いが見られます。対象の市民に適切に情報が伝わるようにするためには、情報を受け取る年代や家族構成によって情報発信の媒体を変えることが必要ではないでしょうか。

また、毎回同じ種類の情報を発信する場合は、ほとんど同じ内容を掲載することが多くなりがちであるため、その都度、イベントや会員募集等に合わせるとともに、伝えたい市民に向けた内容を掲載するように心がけることが大切です。事前に市民ニーズの調査、把握に努め、注目、関心を引くPRを検討しましょう。

情報発信の表現も、文字ばかりでは情報を得るのに負担感を感じる層もあるため、視覚的にすぐ伝わり興味をそそるような表現方法が必要です。また、ロコミを共有したくなる「楽しい」イベントや活動内容の透明化によって、まず知ってもらう、『気づく』機会があることが、次の「面白く感じる」、「参加する」、「楽しむ」につながる重要な要素です。

これらの取り組みによって新規に活動に参加する『きっかけ』を増やしてみたいかがででしょうか。

各情報発信の手法のメリットとデメリット

◎ SNS活用

メリット

- ・ 口コミに近く信頼度が高い
- ・ 情報を拡散することにより、特に知縁の仲間を増やしやす
- ・ 利用者が多く、また気軽に情報を得やすい

デメリット

- ・ アクセスしないと情報を得られないため、そもそも接点や関心がない人には出会いにくい
- ・ 運営側の情報発信の頻度に左右される
- ・ 情報拡散は一定の力を生むため、誤った情報やイメージが広まる等、個人に損害を与える恐れもある

◎ 市の広報誌の活用

メリット

- ・ 行政の発行物は一般に信頼度が高い
- ・ 市民アンケートの結果からも、多くの人が読んでいる

デメリット

- ・ オンタイムな情報を流せない場合がある
- ・ デザイン等が決まっているため、団体の個性は表しにくい
- ・ 掲載量や回数に限りがある

◎ 個別配布やポスター設置等

メリット

- ・ 市民自らがアクセスしなくても、自然に目にできる

デメリット

- ・ 発信範囲が限られる

(2) 市民が参加しやすい団体運営づくり

市民アンケート結果では、地域との関わりが希薄化することへの懸念や地域間での助け合い、支え合いが大切であるという回答がある一方で、参加への負担感や不信感があるため参加したくないとの回答も多くありました。

また、現在の活動内容や体制が、現代社会に合っておらず、団体運営の体制の見直しが必要ではないかという意見もありました。

以上のことから、市民にとって、地域活動が身近で参加しやすく、また活動へ参加することへの満足感や達成感が得られるような運営におけるコーディネート方法や仕組みが必要だと考えられます。具体的には、市民アンケート結果から以下のような内容が必要です。

ア. 参加者にとって参加しやすい団体運営体制

- ◆強制的な参加や負担を感じさせないこと（単純持ち回りはしない等）
- ◆新しい人が輪に入りやすい環境であること（長くいる人の内輪な活動や会話をしない等）
- ◆意見が反映され、みんなで決定できること
- ◆楽しいと感ずること
- ◆つらいと感じにくいこと（一人に負荷が集中しないようフォローする等）
- ◆自分の働きに対してきちんと感謝されること（少ない参加でもありがとうと言ってもらえる等）

イ. 「ア」に近づくために、運営する側にとって大事なこと

- ◆柔軟な考えを持ち、みんなの意見を取り入れることができること
- ◆新規加入者を1人にしないで、輪に入りやすくし、孤独感や疎外感を感じさせないこと
- ◆活動に気持ちよく参加し、過ごしてもらえること
- ◆参加して楽しいと思えるイベントや仕組みがあること
- ◆注目や興味を喚起する的確な情報発信を行うこと
- ◆柔軟な参加の仕方、多様なかかわり方があること

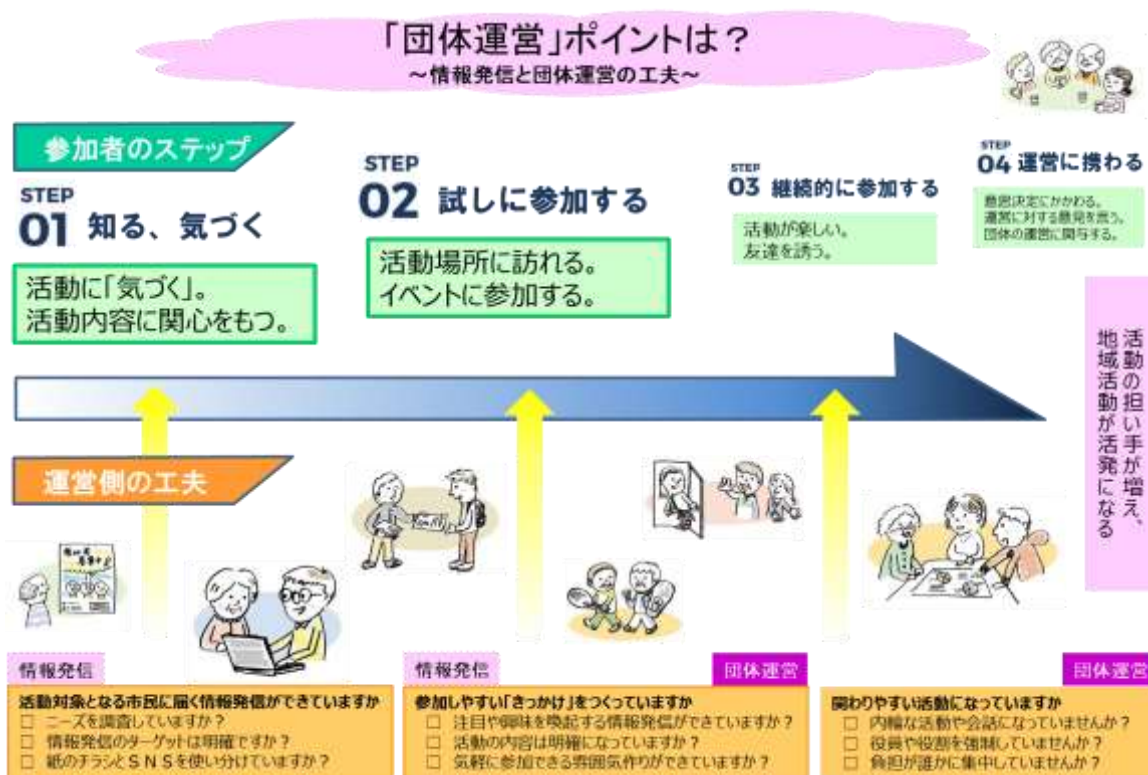
一般に、これらの働きはコーディネーションやファシリテーションと呼ばれるものであり、地域活動団体の活動には、参加者の活動への関わり度合いに応じてこうしたコーディネーションやファシリテーションが適切に発揮されることが、参加者の持続的な参加や、地域のことに自ら積極的に関わろうとし、地域活動の担い手になっていく『きっかけ』になります。

(3) 地域活動団体向けポイントガイドの作成

今回提案した地域活動団体の運営にかかわる「地域活動に対する『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり」を市民の参加度合に応じたステップごとに団体運営で取り組むべきポイントを整理したポイントガイドを、アンケート結果を基に作成しました。

各地域活動団体において、今後の団体運営の参考としていただけたら幸いです。

以下の図は、ポイントガイドにも記載した、市民参加度合と団体運営のポイントを示したものです。



おわりに

第六期多摩市自治推進委員会は、平成28年11月にスタートし、検討を行ってきました。

多摩市自治基本条例が平成16年8月に施行されてから10年以上が経過し、その時間の経過とともに社会状況やライフスタイル等が変化し、それに伴い地域活動への関わり方についても変化してきました。その中で「更に自治を推進するためには、どのようにしたら良いのか」に対して検討していくこととしました。

検討していく中では、地域活動団体への会員の新規加入数が減少していることや、会員の高齢化による活動の減少等を課題と捉え、地域への関わりや地域活動を推進するため、「地域活動に対する『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり」をテーマとして議論してきました。地域活動への参加度合も年齢層も異なる委員の経験に加え、市民や地域活動団体へのアンケートや若者会議の傍聴等を通じて、情報発信と団体運営の仕方について、地域活動団体側とそれを受け取る市民側でミスマッチが生じていることが明らかになりました。それに基づいてミスマッチの解消のために必要な、情報発信と団体運営づくりで考慮すべき具体的な考え方を報告書としてまとめました。

また、報告書と併せて、市民が活動に『気づき』、参加の『きっかけ』となる団体側の取り組みを、「ポイントガイド」としてまとめました。この「ポイントガイド」では、イラスト等に加え、実際に団体を運営していく際のステップに沿った形でのガイドとなっています。報告書とともにぜひご活用ください。

2年間の任期を振り返って、限られた回数の委員会ではあったものの、委員会での活発な議論を経てこうして報告書がまとまりましたことを大変嬉しく思いますとともに、アンケート調査にご協力いただきました市民、地域活動団体の皆様に、厚くお礼申し上げます。

第六期多摩市自治推進委員会

委員長	和田	清美
副委員長	西川	正
委員	小城	昭根
委員	島野	泉
委員	高澤	愛
委員	富田	治

第六期自治推進委員会の検討実績

委員会	日程	検討事項
第1回	平成28年11月17日	行政への市民参画実績等の現状を把握
第2回	平成28年12月2日	
第3回	平成29年1月23日	
第4回	平成29年2月14日	自治推進委員会での取り組み内容の検討 (地域活動への参加推進について)
第5回	平成29年3月16日	
第6回	平成29年5月18日	テーマの決定：地域活動に対する『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり 地域活動についての課題抽出
第7回	平成29年6月30日	
	平成29年8月4日	第2回多摩市若者会議傍聴
第8回	平成29年8月7日	「気づき」と「きっかけ」の仕掛けについて検討
	平成29年9月25日～ 平成29年10月20日	地域活動に関する市民参画アンケート及び自治会・町会及び市民活動団体へのアンケートを実施
第9回	平成29年11月6日	アンケート結果から見えてきた課題の確認
第10回	平成29年12月25日	地域活動の活性化への提案内容の検討
第11回	平成30年3月15日	
第12回	平成30年5月11日	報告書の内容についての検討
第13回	平成30年7月30日	
第14回	平成30年10月1日	
第15回	平成30年10月19日	
第16回	平成30年11月12日	

～資料編～

1. アンケート結果

(1) 地域活動に関する市民参画アンケート

実施期間 平成29年9月25日～平成29年10月20日（26日間）

実施対象 多摩市民1500人（無作為抽出）

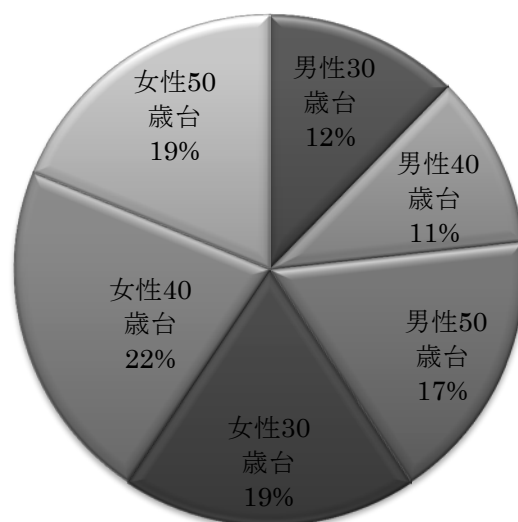
回収率 357件（23.5%）

【回収率】

1. 性別・年齢別

		件数 (件)	割合 (%)
男性	30歳台	44	12
	40歳台	39	11
	50歳台	62	17
女性	30歳台	67	19
	40歳台	78	22
	50歳台	67	19
合計		357	100

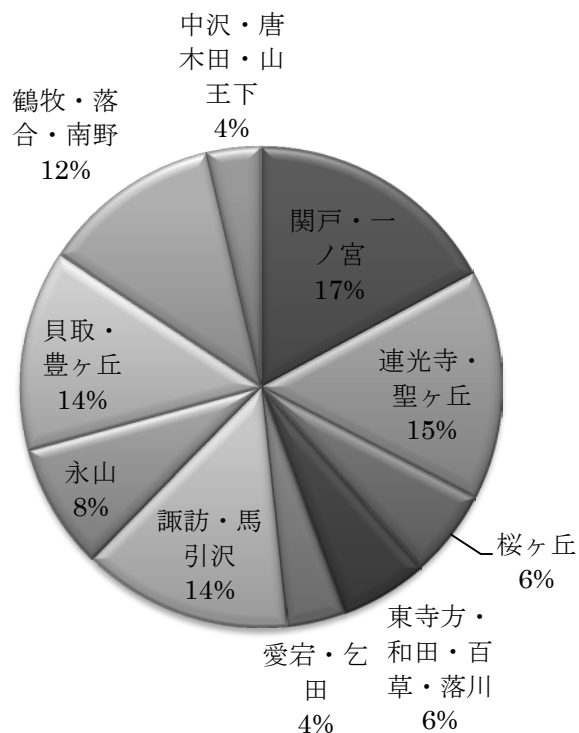
◆男性：女性＝40：60 女性の方が回収率が高かった。



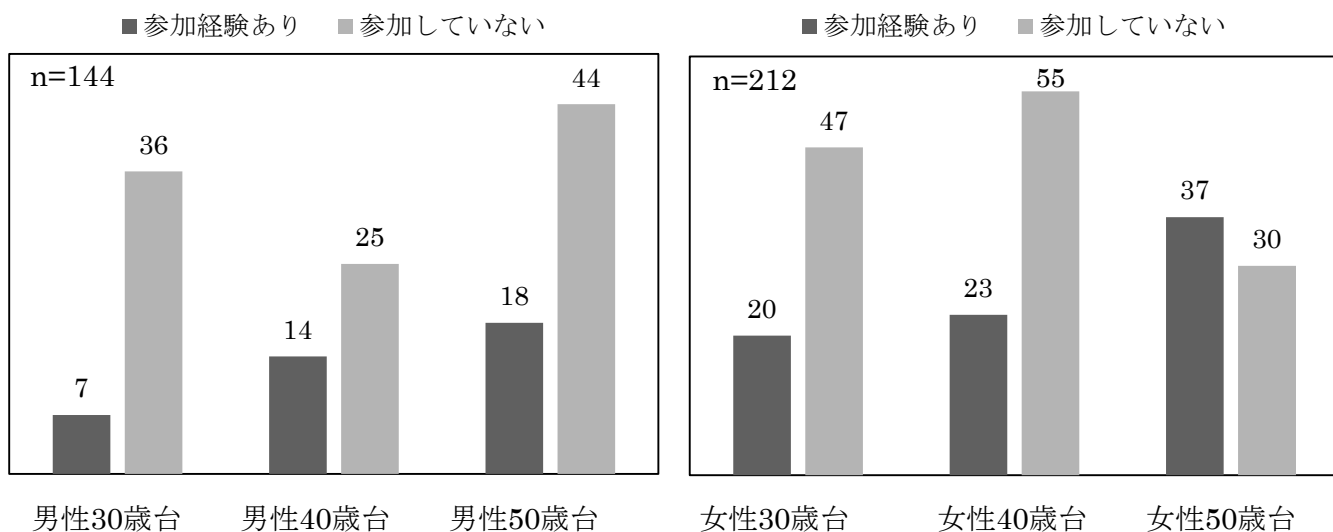
2. 地区別

	件数 (件)	割合 (%)
関戸・一ノ宮	61	17
連光寺・聖ヶ丘	55	15
桜ヶ丘	21	6
東寺方・和田・百草・落川	21	6
愛宕・乞田	14	4
諏訪・馬引沢	50	14
永山	30	8
貝取・豊ヶ丘	48	14
鶴牧・落合・南野	43	12
中沢・唐木田・山王下	13	4
合計	356	100

◆回収率が高い順に「関戸・一ノ宮」「連光寺・聖ヶ丘」「諏訪・馬引沢」。



問1 自治会・町会や市民活動団体のメンバーとして参加している、又は参加したことがあるか

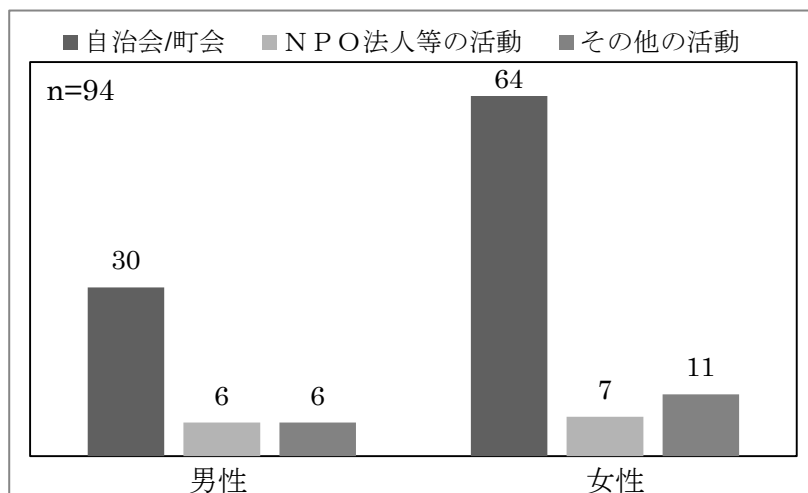


(件数)	男性			女性		
	30歳台	40歳台	50歳台	30歳台	40歳台	50歳台
参加経験あり	7	14	18	20	23	37
参加していない	36	25	44	47	55	30

◆「参加していない」が「参加経験あり」よりどの世代も高いが、女性50歳台は「参加経験あり」の方が高くなっている。

問2 参加しているのはどのような団体か

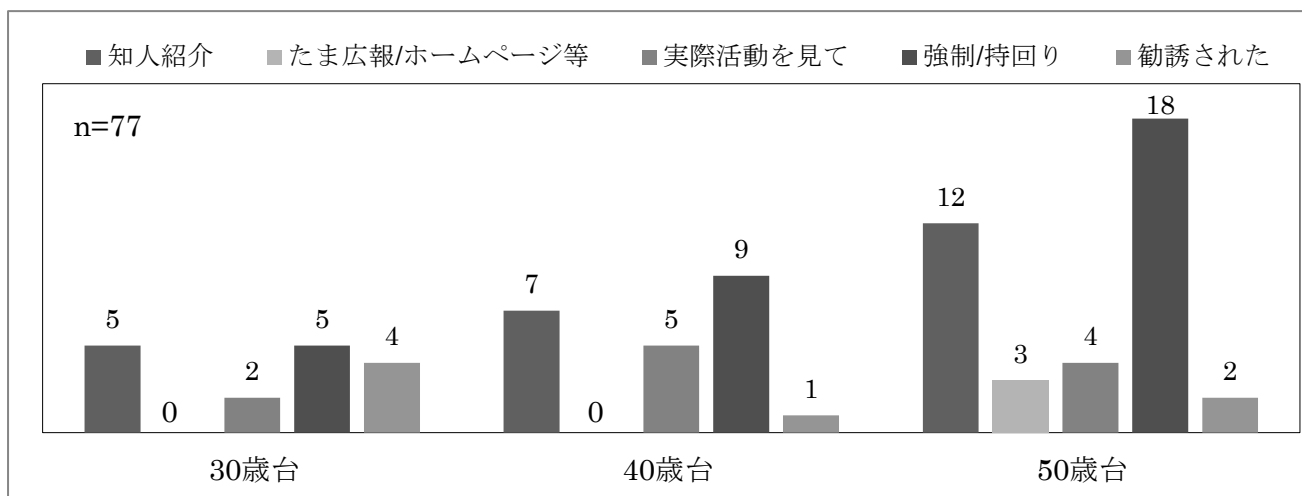
(件数)	自治会・町会	NPO法人等	その他
男性	30	6	6
女性	64	7	11
総計	94	13	17



◆参加経験のほとんどが「自治会・町会」の参加であった。

問3 自治会について

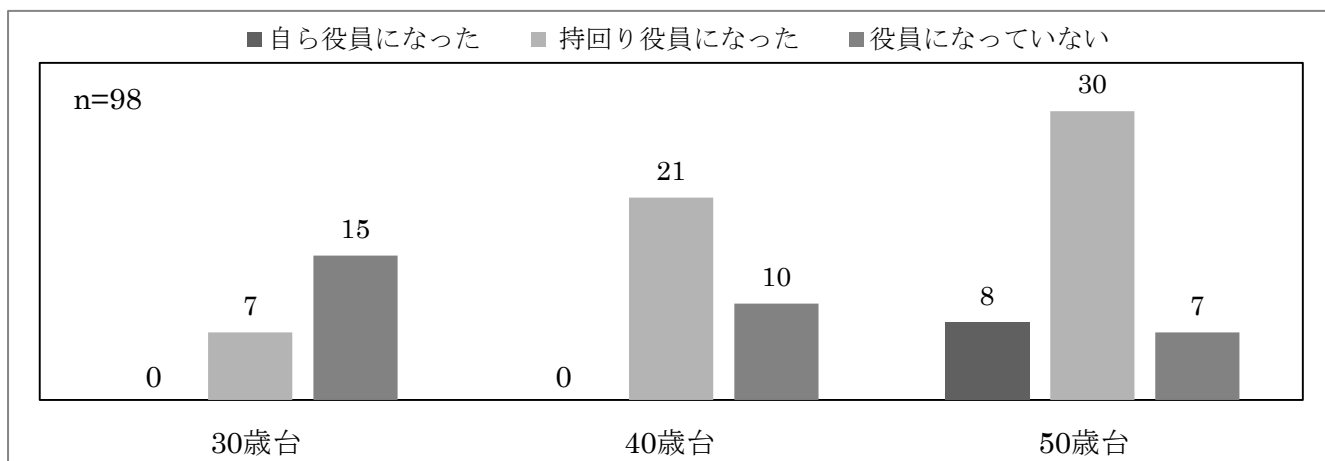
問3-1 参加のきっかけ



(件数)	知人紹介	たま広報/ホームページ等	実際活動を見て	強制/持回り	勧誘された	計
30歳台	5	0	2	5	4	16
40歳台	7	0	5	9	1	22
50歳台	12	3	4	18	2	39
総計	24	3	11	32	7	77

◆どの世代も、「強制/持回り」が多かった。※「強制/持回り」はその他自由記述。

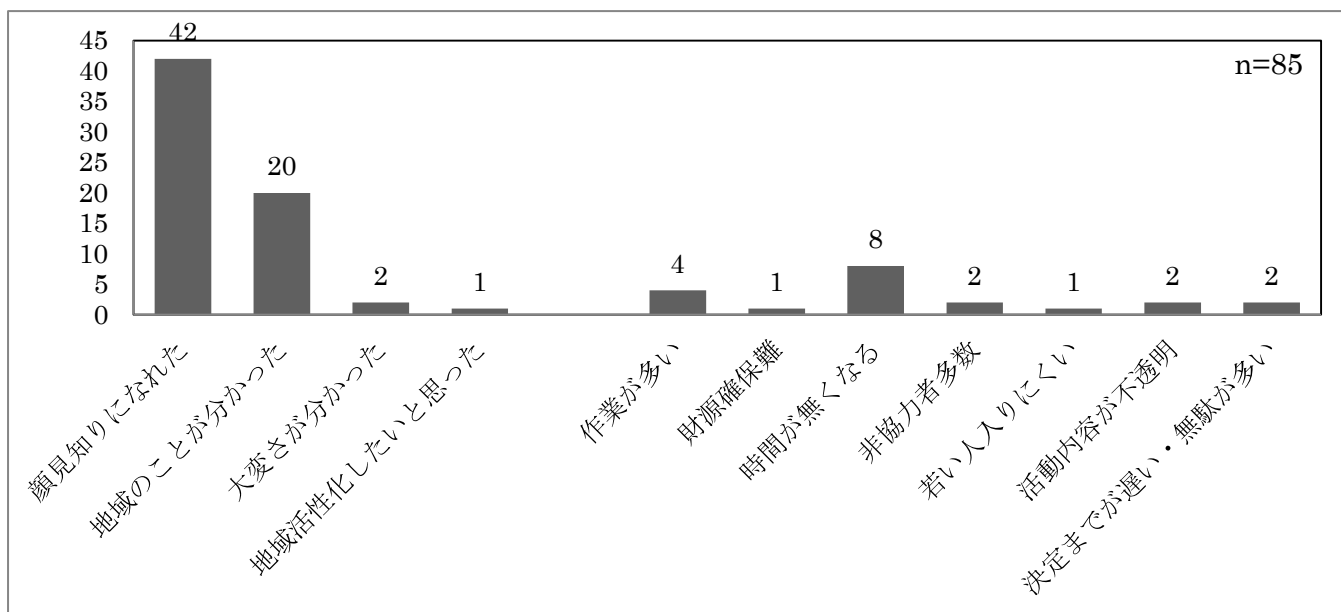
問3-2 役職について



(件数)	自ら役員になった	持回り役員になった	役員になっていない	計
30歳台	0	7	15	22
40歳台	0	21	10	31
50歳台	8	30	7	45
総計	8	58	32	98

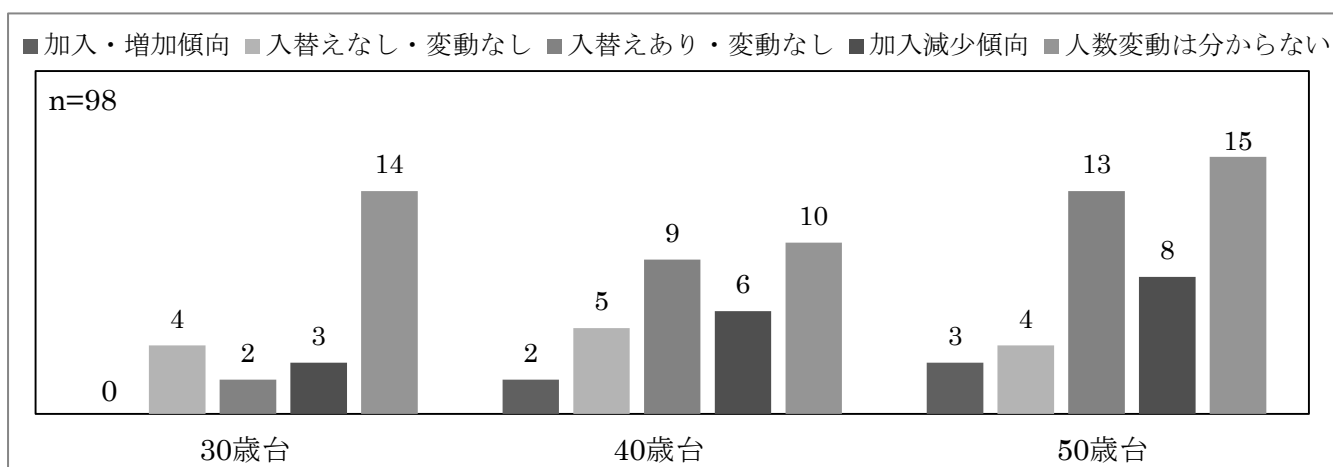
◆「持回りで役員になった」がどの世代も多いが、30歳台は「役員になっていない」が多かった。

問3-3 参加して良かったこと・悪かったこと



- ◆良かった点として、近所・近隣と顔見知り・仲良くなれたが多数だった。
- ◆悪かった点として、「自分の時間が無くなる」が多かった。

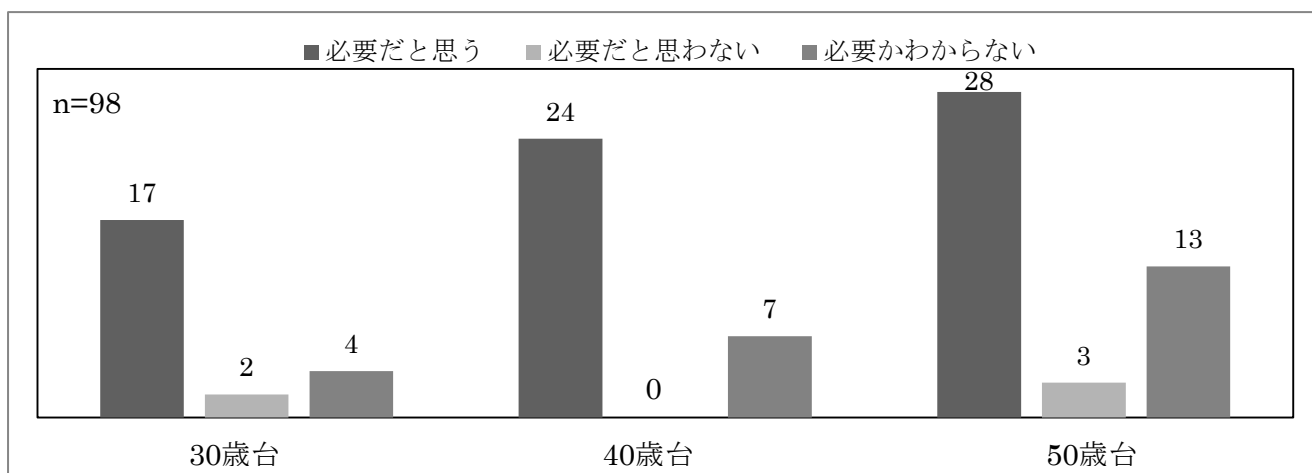
問3-4 参加団体の人数変動



(件数) n=97	加入・増加 傾向	入替えなし・ 変動なし	入替えあり・ 変動なし	加入減少傾向	分からない	計
30歳台	0	4	2	3	14	23
40歳台	2	5	9	6	10	32
50歳台	3	4	13	8	15	43
総計	5	13	24	17	39	98

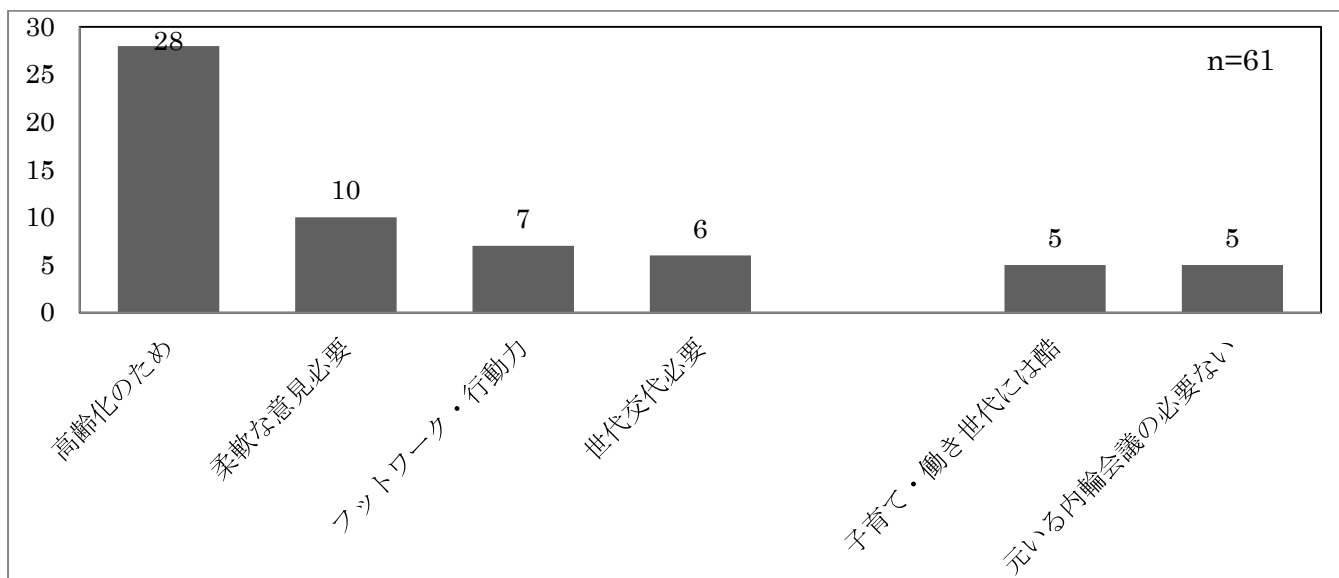
- ◆人数変動については、どの世代も「わからない」が多かった。

問3-5 若い方等の新たな担い手が必要か



(件数)	必要だと思う	必要だと思わない	必要かわからない	計
30歳台	17	2	4	23
40歳台	24	0	7	31
50歳台	28	3	13	44
総計	69	5	24	98

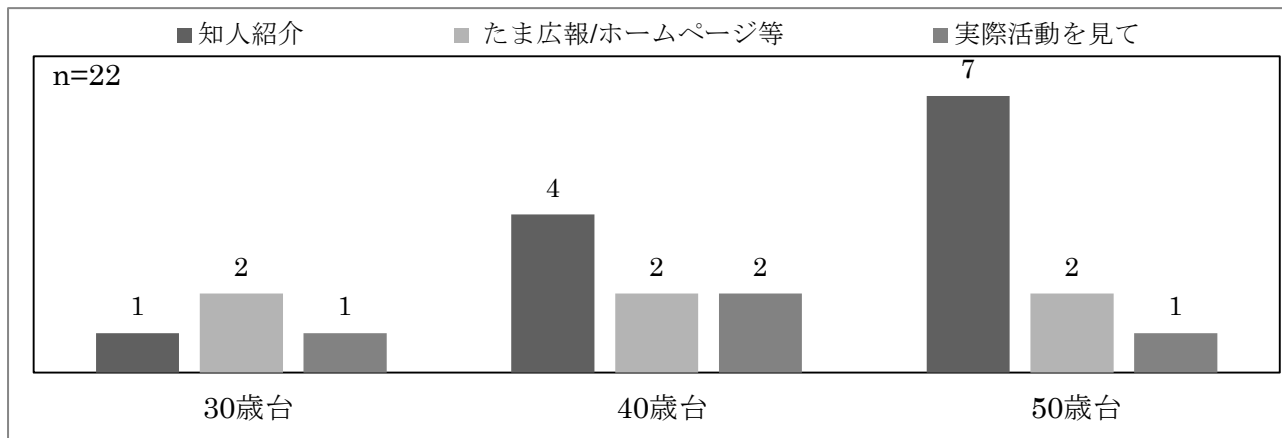
※選択理由



- ◆どの世代も担い手が「必要だと思う」との回答が多かった。
- ◆理由：高齢化や柔軟な意見が必要という意見が多かった。 n=61
- ◆「必要だと思わない」理由としては、「若い世代は多忙だから酷」、「元々いる内輪の会議に若手は必要ないのでは」という意見があった。

問4 NPO法人等、その他について

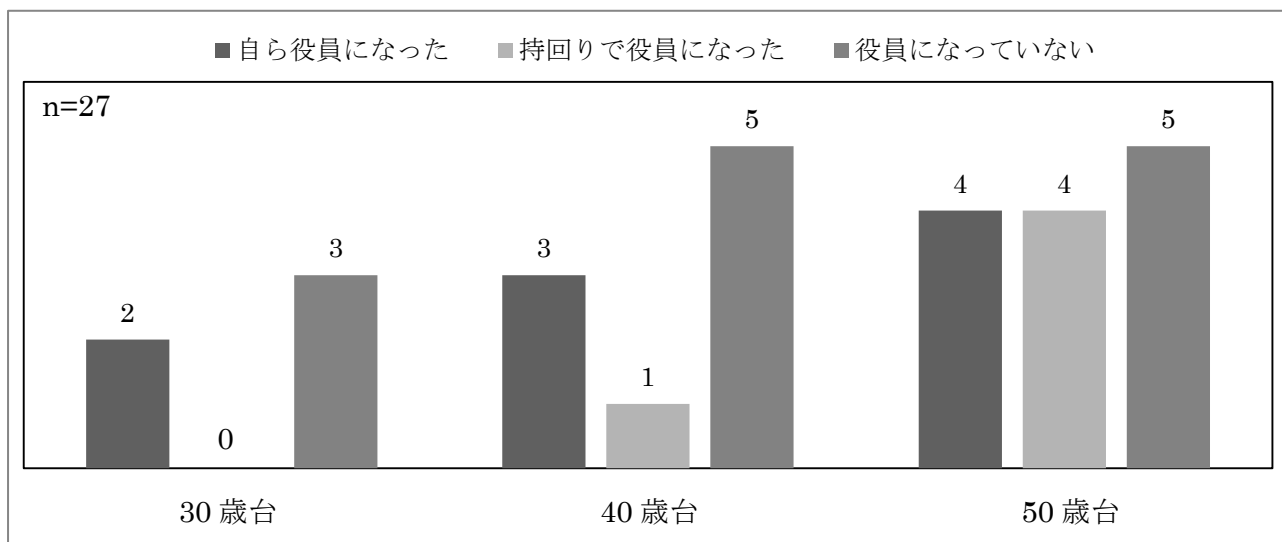
問4-1 参加のきっかけ



(件数)	知人紹介	たま広報/ホームページ等	実際活動を見て	計
30歳台	1	2	1	4
40歳台	4	2	2	8
50歳台	7	2	1	10
総計	12	6	4	22

◆ 40歳台、50歳台では、「知人の紹介」が多かった。

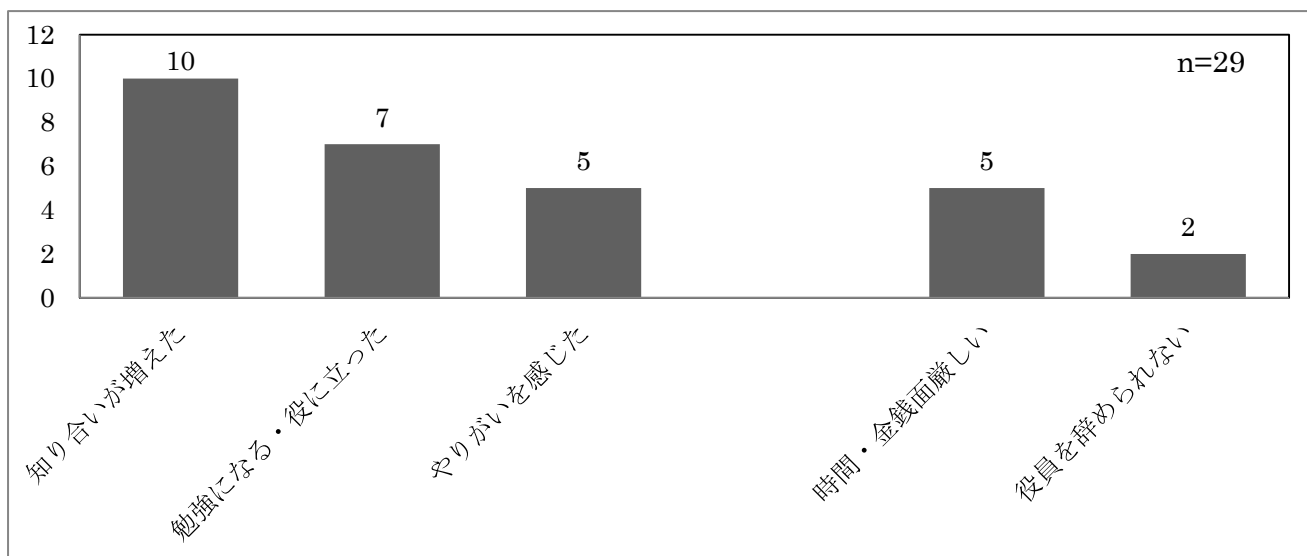
問4-2 役職について



(件数)	自ら役員になった	持回りで役員になった	役員になっていない	計
30歳台	2	0	3	5
40歳台	3	1	5	9
50歳台	4	4	5	13
総計	9	5	13	27

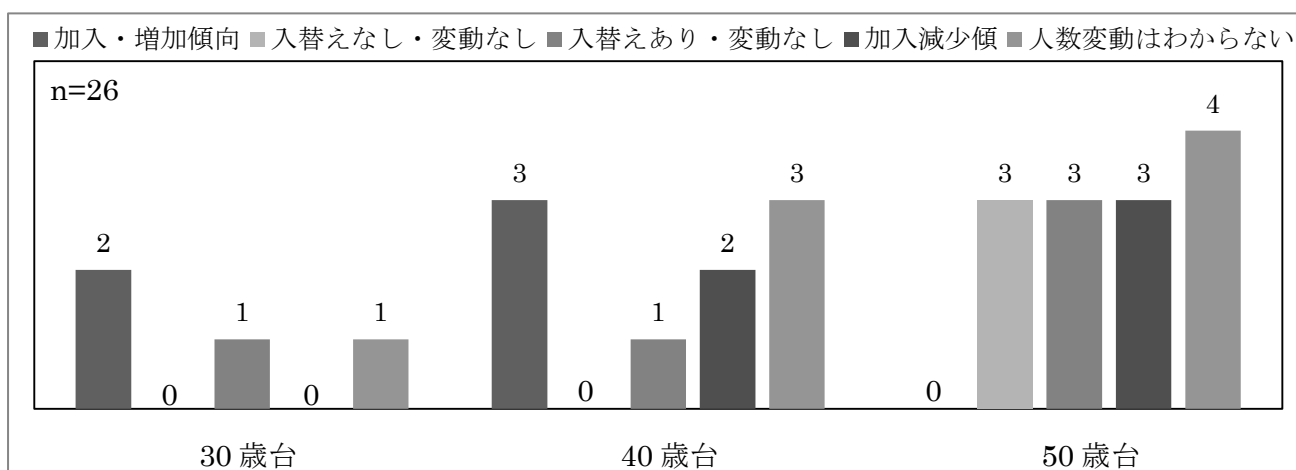
◆ どの世代も「役員になっていない」が多かった。

問4-3 参加して良かったこと・悪かったこと



- ◆良かった点として、「知り合いが増えた」、「自分の勉強や役になった」との回答が多かった。
- ◆悪かった点として、「時間・金銭面が厳しい」「担い手がおらず役員がやめられない」があった。

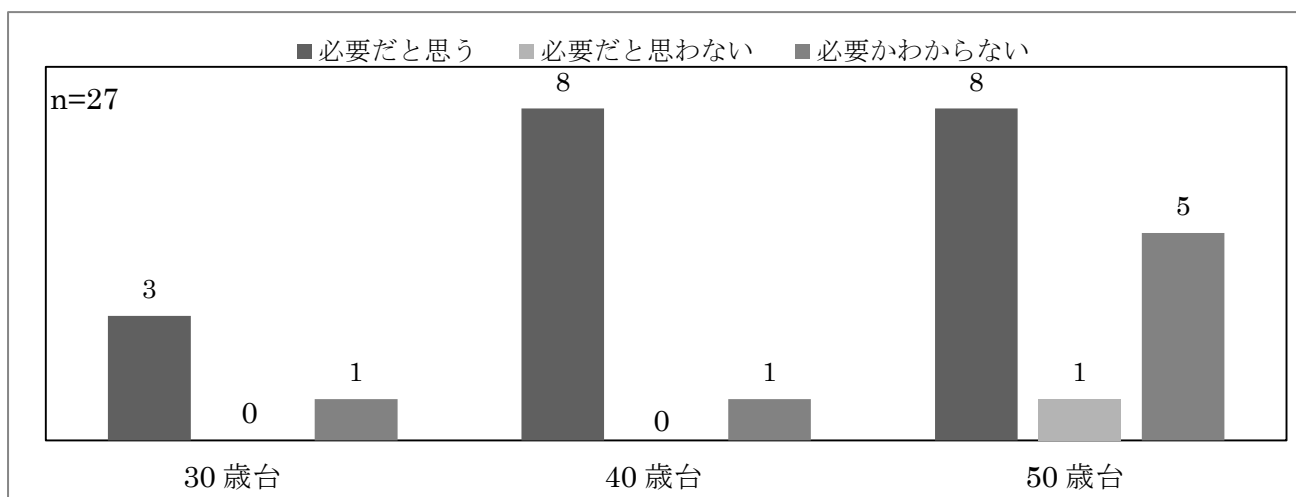
問4-4 参加団体の人数変動



(件数)	加入・増加傾向	入替えなし・変動なし	入替えあり・変動なし	加入減少傾向	わからない	計
30歳台	2	0	1	0	1	4
40歳台	3	0	1	2	3	9
50歳台	0	3	3	3	4	13
総計	5	3	5	5	8	26

- ◆「わからない」という回答が多かったものの、団体によって人数変動や入替えがある。

問4-5 若い方等の新たな担い手が必要か



(件数)	必要だと思う	必要だと思わない	必要かわからない	計
30歳台	3	0	1	4
40歳台	8	0	1	9
50歳台	8	1	5	14
総計	19	1	7	27

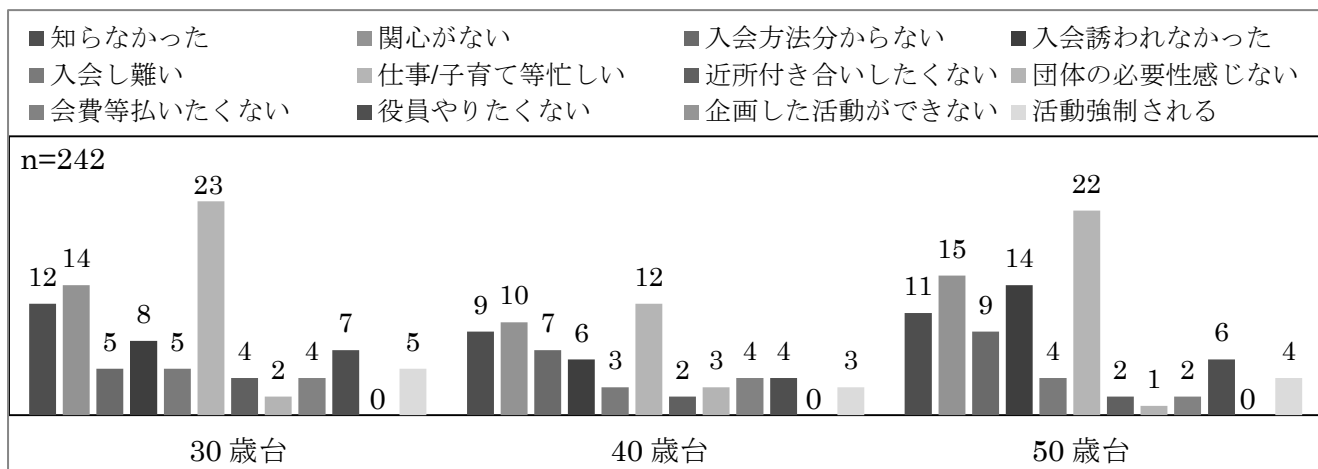
※選択理由

主な意見	高齢化のため
	柔軟・今の意見必要
	フットワークの軽さ
	世代交代必要
その他の意見	定年した年代がメインになるのは仕方ないが、若手が入り込みにくいのは良くない
	様々な年齢が交流できた方が地域活性化につながりそう
	何が必要かわからないから
	現状を知っている若い人（保護者）が必要だから
	いつか負担を感じるかもしれない。近所から同じ人と思われる。継続性も不安
	実際若い方々が入ってこないのは、困っていることがないのかもしれない。それはよい事なので
活動内容次第だと思います	

- ◆どの世代も担い手が「必要だと思う」との回答が多かった。
- ◆理由：高齢化や柔軟な意見が必要という意見が多かった。
- ◆「必要だと思わない」は1人のみだった。

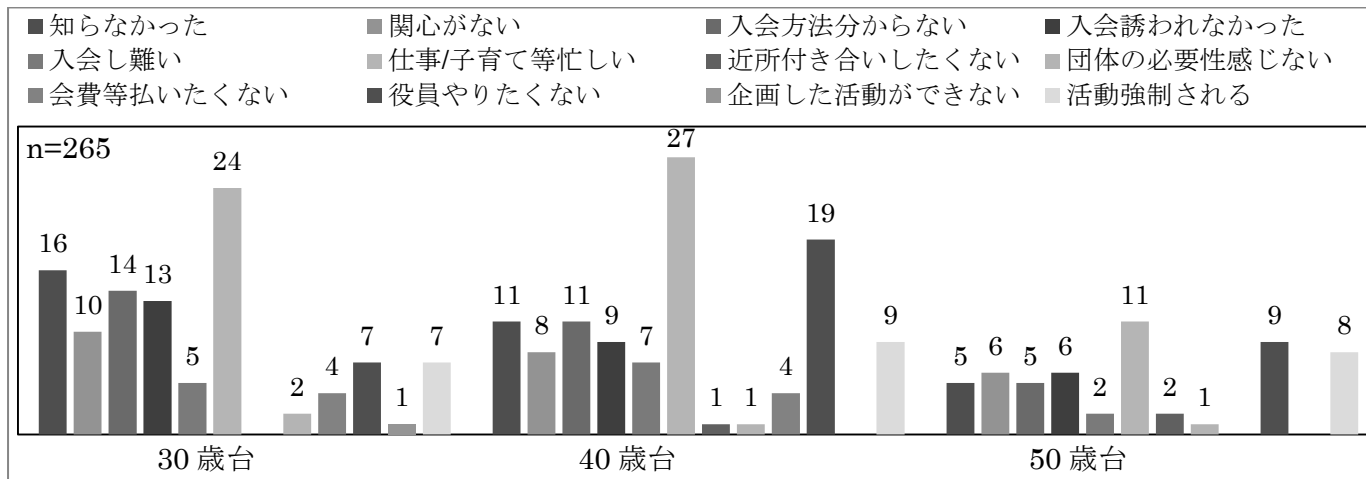
問5-1 参加しない理由（複数回答）

◆男性◆



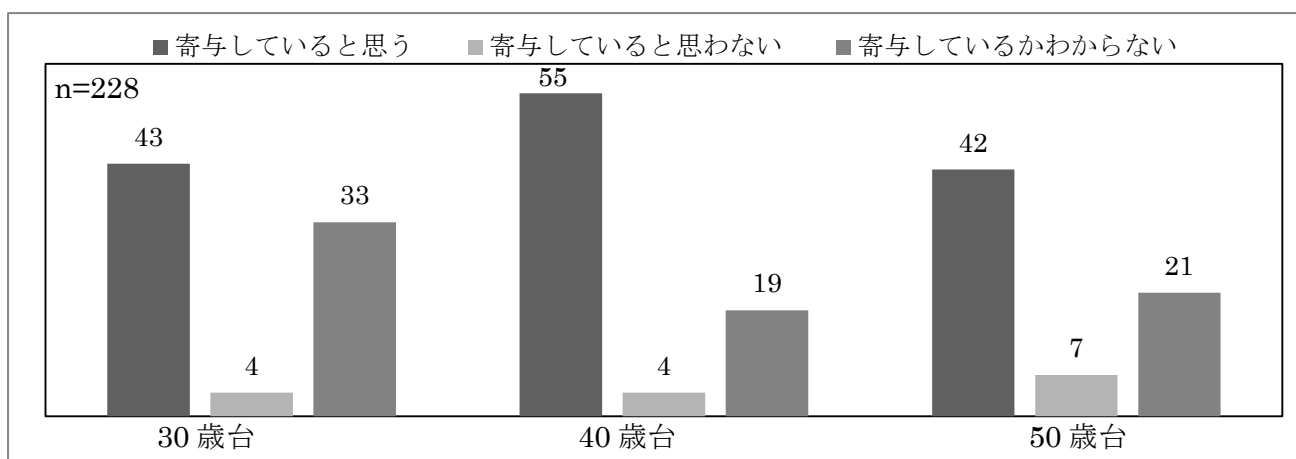
	知らなかった	関心がない	入会方法分からない	入会誘われなかった	入会し難い	仕事/子育て等忙しい	近所付き合いしたくない	必要性感じない	会費等払いたくない	役員やりたくない	企画した活動できない	活動強制される	計
30歳台	12	14	5	8	5	23	4	2	4	7	0	5	89
40歳台	9	10	7	6	3	12	2	3	4	4	0	3	63
50歳台	11	15	9	14	4	22	2	1	2	6	0	4	90
総計	32	39	21	28	12	57	8	6	10	17	0	12	242

◆女性◆



	知らなかった	関心がない	入会方法分からない	入会誘われなかった	入会し難い	仕事/子育て等忙しい	近所付き合いしたくない	必要性感じない	会費等払いたくない	役員やりたくない	企画した活動できない	活動強制される	計
30歳台	16	10	14	13	5	24	0	2	4	7	1	7	103
40歳台	11	8	11	9	7	27	1	1	4	19	0	9	107
50歳台	5	6	5	6	2	11	2	1	0	9	0	8	55
総計	32	24	30	28	14	62	3	4	8	35	1	24	265

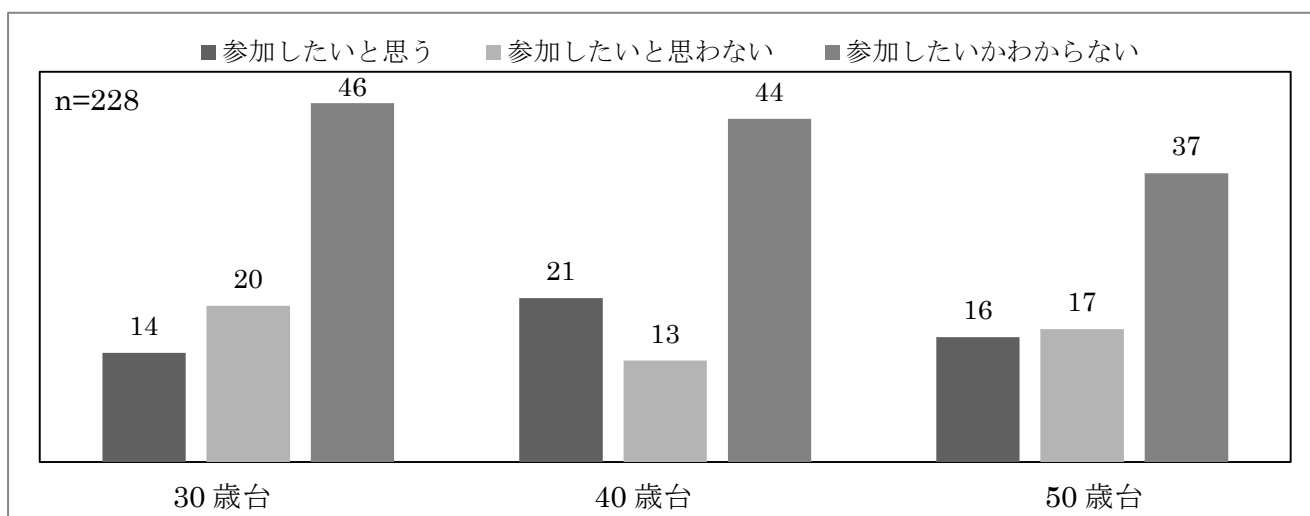
問5-2 活動が人や地域のつながりに寄与していると思うか



(件数)	思う	思わない	かわからない	計
30歳台	43	4	33	80
40歳台	55	4	19	78
50歳台	42	7	21	70
総計	140	15	73	228

◆どの世代も、「寄与していると思う」と回答が多かった。

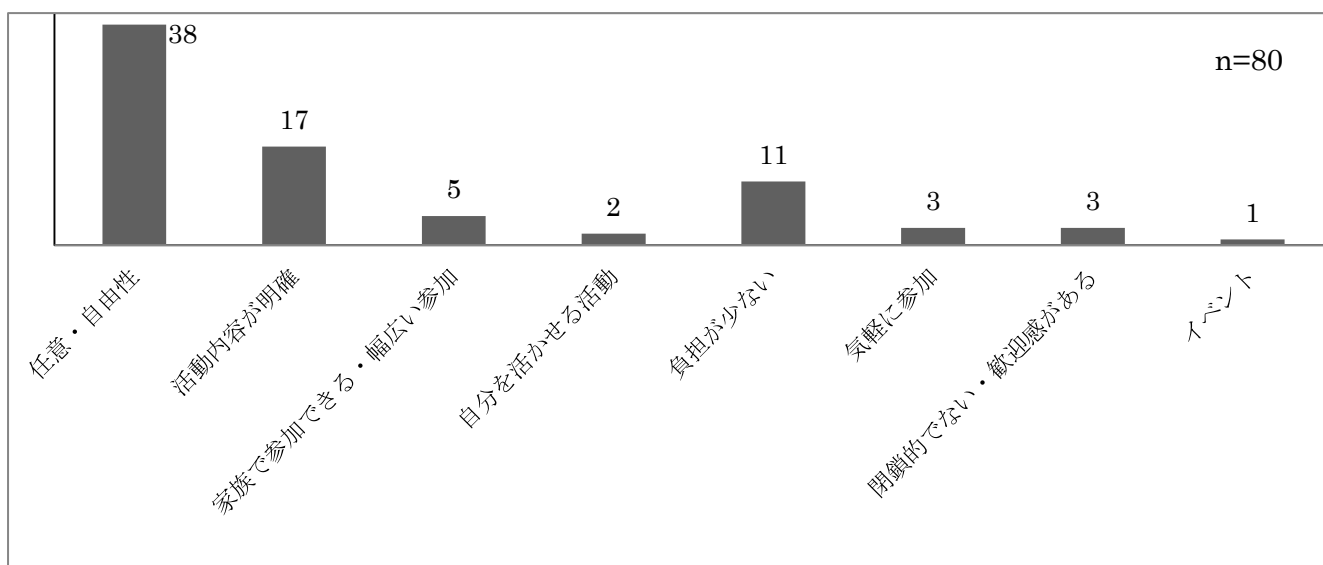
問5-3 今後活動に参加したいと思うか



(件数)	思う	思わない	かわからない	計
30歳台	14	20	46	80
40歳台	21	13	44	78
50歳台	16	17	37	70
総計	51	50	127	228

◆「今後参加したいかわからない」が多数であった。

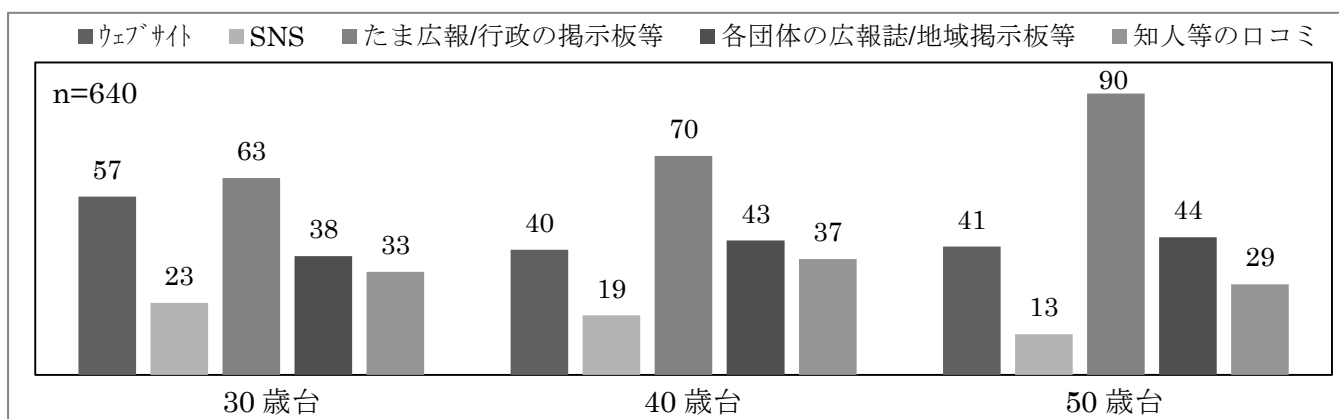
問5-4 どのような受け入れ体制や活動体制を望むか（記述回答）



(件数)	任意・自由性	活動内容が明確	家族で参加・幅広い参加	自分を活かせる活動	負担が少ない	気軽に参加	閉鎖的でない・歓迎感がある	イベント
30歳台	19	6	2	1	3	0	1	0
40歳台	10	6	3	1	4	2	2	0
50歳台	9	5	0	0	4	1	0	1
総計	38	17	5	2	11	3	3	1

◆強制的ではなく、任意・自由性のある活動体制、幅広い世代等の参加体制の意見が多かった。

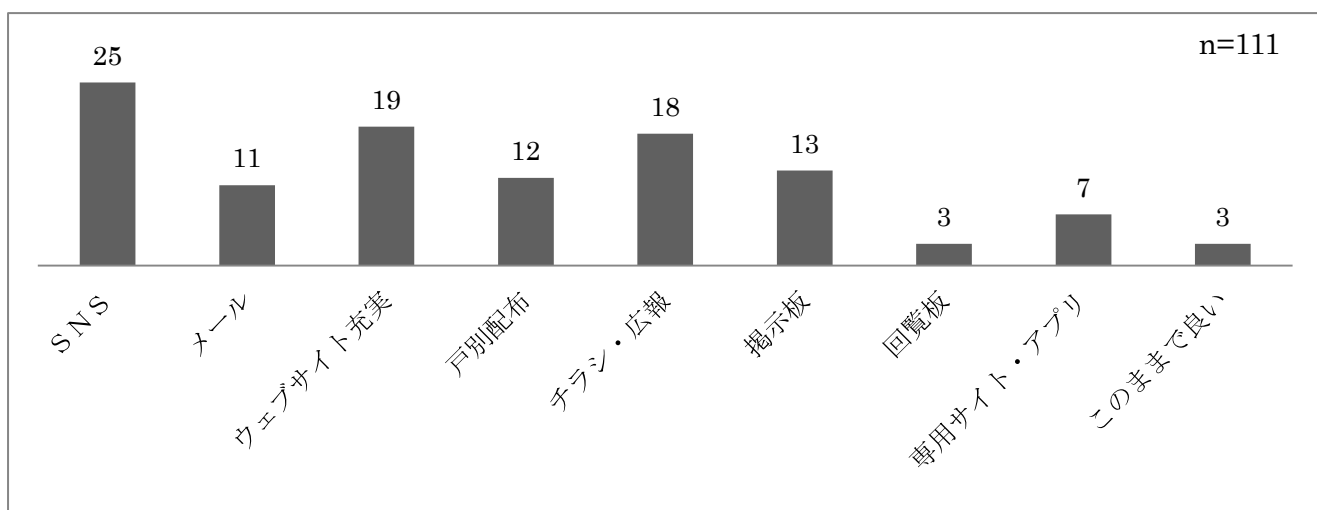
問6 情報収集方法（複数回答）



(件数)	ウェブサイト	SNS	たま広報/行政の掲示板等	各団体の広報誌/地域掲示板等	知人等の口コミ	計
30歳台	57	23	63	38	33	214
40歳台	40	19	70	43	37	209
50歳台	41	13	90	44	29	217
総計	138	55	223	125	99	640

◆「ウェブサイト」も多かったが、「たま広報/行政の掲示板」がどの世代もいちばん多かった。

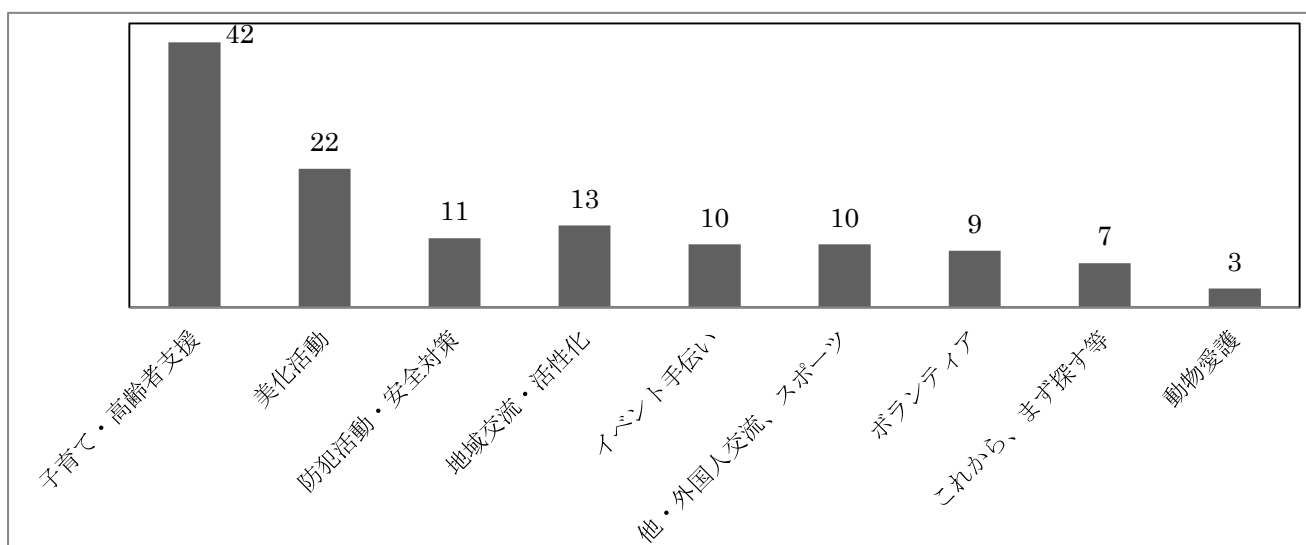
問7 行政からの情報発信で、推進してほしい方法（記述回答）



◆若い世代を中心に、SNSやウェブ等のインターネット利用の回答が多かったが、チラシや広報等の紙媒体の方が目につきやすいという意見が多かった。

(件数)	SNS	メール	ウェブサイト充実	戸別配布	チラシ・広報	掲示板	回覧板	専用サイト・アプリ	このままで良い
30歳台	13	3	5	5	5	2	0	4	0
40歳台	4	2	5	5	7	6	2	2	2
50歳台	8	6	9	2	6	5	1	1	1
総計	25	11	19	12	18	13	3	7	3

問8 地域活動を始めるとしたら、どのような活動をしてみたいか（記述回答）



◆見守りや場の提供等「子育て・高齢者支援」が最も多かった。

◆ごみ拾いや清掃活動の「美化活動」も多かった。

問9 自治会・町会や市民活動団体に思うこと、今後の関わり方（記述回答）

複数意見	年齢や世代を問わず楽しめ、気軽な参加等の入会や参加に対し柔軟な対応	20件
	継続してほしい・なんらかしら協力したい	15件
	活動・会費等負担が心配	10件
	活動内容・問合先等が不明	10件
	気軽に参加できる体制	10件
	新しい人と前からいる人との隔たり	7件
	今は余裕がない	4件
	関わり方が分からない	4件
	世代交代・若手も一緒に	4件
	情報発信が大事	3件
	会費の無駄遣い・必要性を感じない	3件
	参加・知ってもらうことが大事	2件
	地域との関わりが希薄化していることへの懸念	2件
その他意見	気持ちの維持が必要	
	地域とのつながりを大事に	
	ウェブ発信が限定的にもなっている	
	コミュニティスペースの充実	
	時間がないが、会費だけで良いなら払いたい	
	現代は人と人の関わりが難しい。年齢を超えてのコミュニケーション能力が低下していると感じる	
	休日のお祭りは賑やかで活気があると思う反面、騒音問題でもある	
	ボランティア（無償）だと難しい。定年後の方でないといけないのでは	
	住民参加の行政サービスの提供。草刈りや、危険個所の補修等地域の活気を取り戻す仕掛け	
	市民が安心して暮らせるように見守っていききたい	
	自ら参加しない。活動する人も否定しない。不参加を否定するのもやめてほしい	
	自治会に入っているらしいけど何もない	
	今後地域防災を監得ると自治会に協力していくのが共助だと思う	
	退会について、やる人がいない場合退会できない。市の協力が必要	
	自分もそうであるが、面倒くさいイメージがある。可能な範囲で長期的に関わっていこうと思う	
現代社会と合わない。「考え方が古い、制約事が古い、見直すことが先決では」		
地域の目による自衛		
ボランティア活動のように活動ごとに登録制		

問10 提案・意見等

複数意見	情報発信不足（多摩の魅力についても、地域活動についても）	13件
	地域間交流の機会を増やし、地域で助け合える体制づくり	11件
	補助金等支援	8件
	気軽い参加	3件
	子育て世代が参加できる活動	3件
	若手・眠る人材育成	2件
	歴史や伝統、文化の祭りやイベント作り	2件
	負担にしか感じず、自治会の意義が分からず	2件
	地域の大学、企業との連携	2件
	多忙で、地域活動について考える時間なし・今後考える	2件
その他意見	意識づけにはアンケートは有効	
	興味がない人が増えているのが課題	
	いざ活動するときに輪に入れるか不安	
	何かの役に立てるのはうれしいと思う	
	オリジナルグッズやサンリオ等のPR	
	シニアが活躍できる	
	ネットワークで共有、呼びかけ	
	フルタイムの人には無理なのは	
	中学校卒業後は情報が入りにくくなるかも	
	市政のビジョンが不明	
	煙草についての改善対策	
	老若男女問わず市を良くするための議論が出来る、ディスカッションの場を設ける	
	PTA等から自然に地域活動になじめるようなステップがあると良い	
	市民目線の町づくり	
	いろいろやってみたいと思う人たちの交流により、よりよい「エネルギー」や「いやし」のある多摩市になれると思う	
自分に利がない、興味がない、人との関わりを嫌う人が多くなっている、まとめるのが大変		
空き家・空き商店街の有効活用（低賃料等）		

(2) 自治会・町会及び市民活動団体へのアンケート

実施期間 平成29年9月25日～平成29年10月20日（26日間）

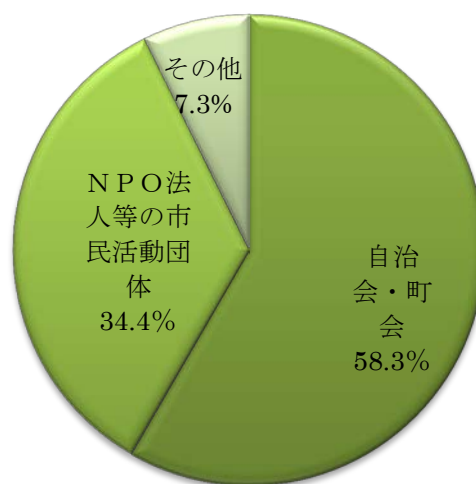
実施対象 自治会・町会及び「2016年度版 地域デビュー手引書 市民活動団体紹介編」及び東京都公式ホームページにて紹介されている団体のうち、一部抽出した団体

発送件数 204件

回収率 96件（47.5%）

【回収割合】（基礎項目1）

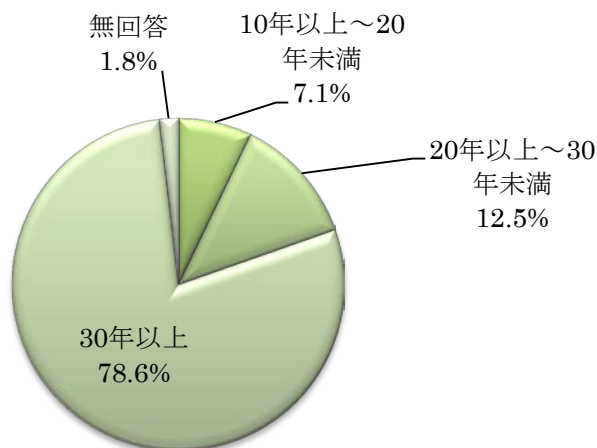
	回収件数	割合
自治会・町会	56件	58.3%
NPO法人等の市民活動団体	33件	34.4%
その他	7件	7.3%
合計	96件	100%



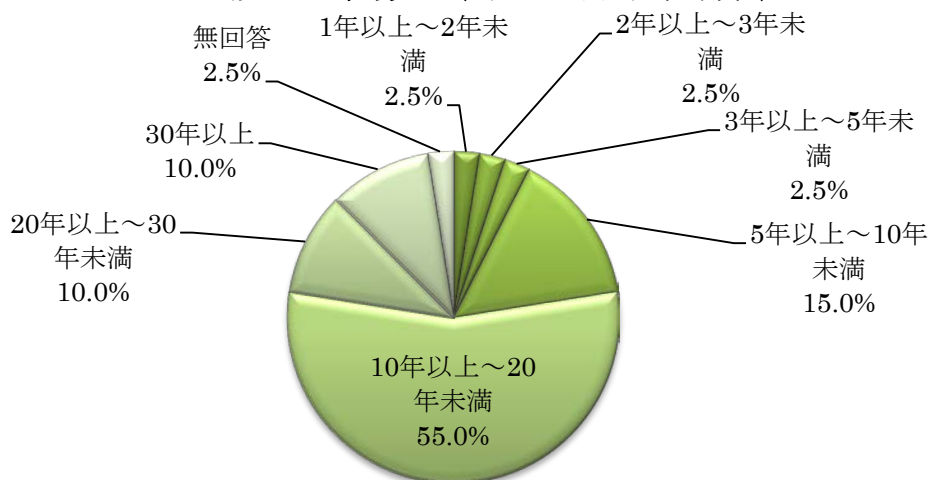
基礎項目 2 設立年数

回答	自治会	割合	市民団体	割合
1年未満	0	0.0%	0	0.0%
1年以上～2年未満	0	0.0%	1	2.5%
2年以上～3年未満	0	0.0%	1	2.5%
3年以上～5年未満	0	0.0%	1	2.5%
5年以上～10年未満	0	0.0%	6	15.0%
10年以上～20年未満	4	7.1%	22	55.0%
20年以上～30年未満	7	12.5%	4	10.0%
30年以上	44	78.6%	4	10.0%
無回答	1	1.8%	1	2.5%
合計	56	100%	40	100%

設立年数（自治会・町会）



設立年数（市民活動団体）

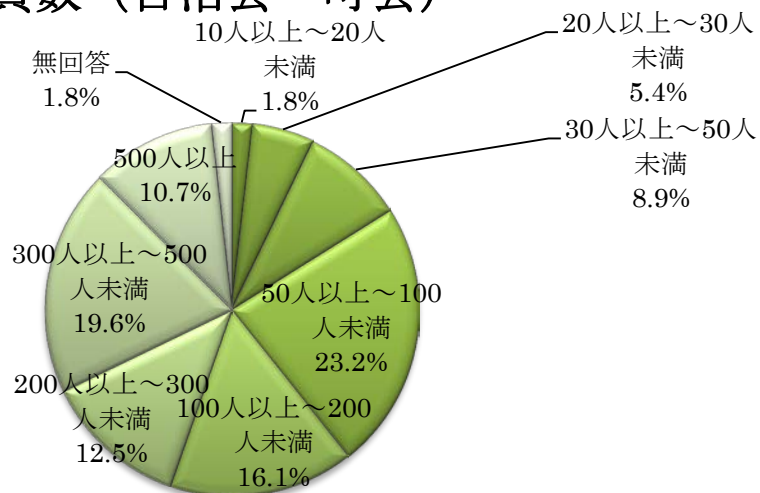


- 全体の半数が設立30年以上の団体となっている。
- 自治会・町会は全て設立10年以上となっており、約8割が設立30年以上となっている。
- 市民活動団体は、設立10年以上～20年以上が半数以上を占めている。

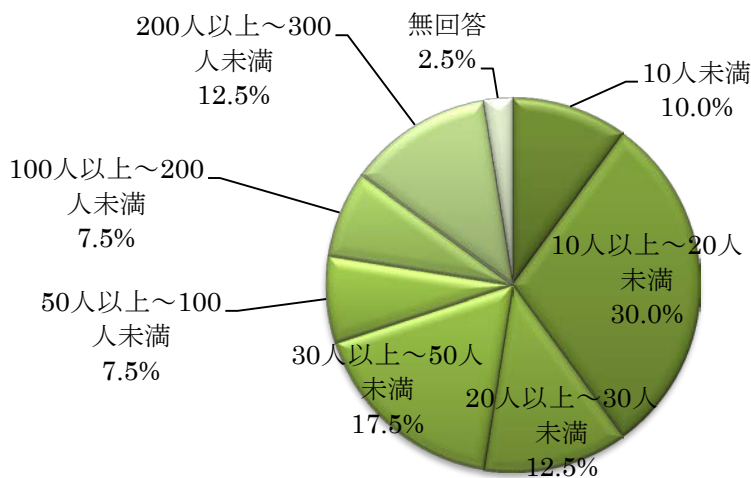
基礎項目3 会員数

回答	自治会	割合	市民団体	割合
10人未満	0	0.0%	4	10.0%
10人以上～20人未満	1	1.8%	12	30.0%
20人以上～30人未満	3	5.4%	5	12.5%
30人以上～50人未満	5	8.9%	7	17.5%
50人以上～100人未満	13	23.2%	3	7.5%
100人以上～200人未満	9	16.1%	3	7.5%
200人以上～300人未満	7	12.5%	5	12.5%
300人以上～500人未満	11	19.6%	0	0.0%
500人以上	6	10.7%	0	0.0%
無回答	1	1.8%	1	2.5%
合計	56	100%	40	100%

会員数（自治会・町会）



会員数（市民活動団体）

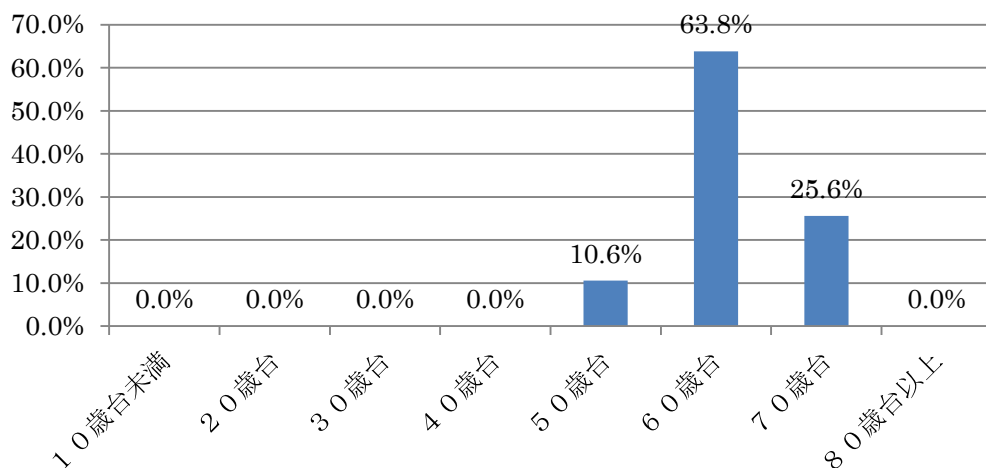


●市民活動団体に比べ、自治会・町会の方が会員数が多い団体が多い傾向がある。

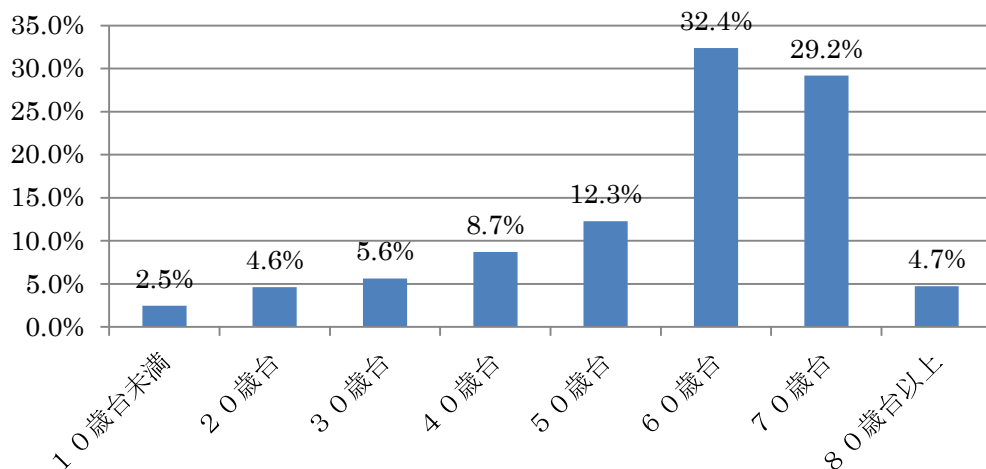
基礎項目4 会員の年齢構成

回答	自治会	市民団体
10歳台未満	0.0%	2.5%
20歳台	0.0%	4.6%
30歳台	0.0%	5.6%
40歳台	0.0%	8.7%
50歳台	10.6%	12.3%
60歳台	63.8%	32.4%
70歳台	25.6%	29.2%
80歳台以上	0.0%	4.7%
合計	100%	100%

年齢構成（自治会・町会）



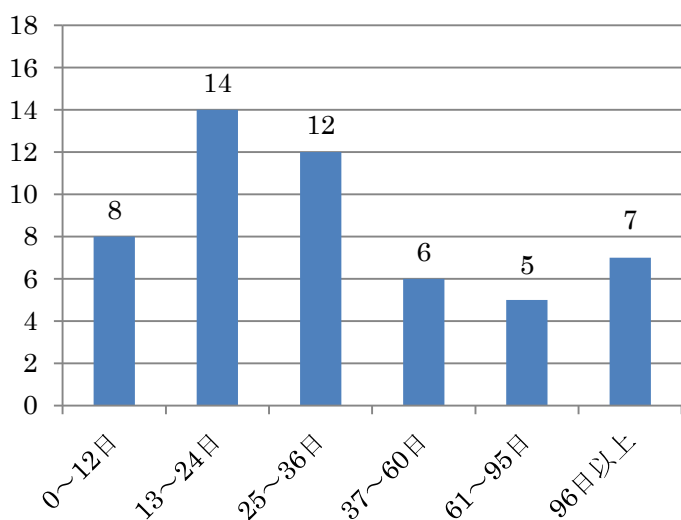
年齢構成（市民活動団体）



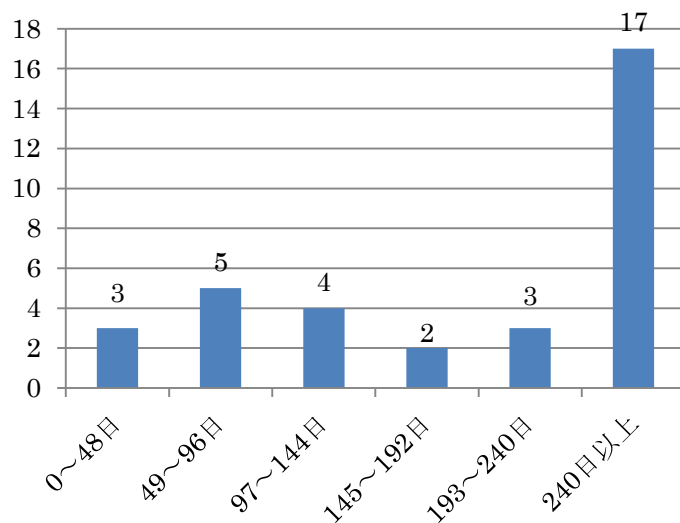
●自治会・町会及び市民活動団体ともに、60歳台以上が多い割合となっている。

基礎項目5 活動日数

自治会・町会



市民活動団体



●自治会・町会と比べ、市民活動団体の年間活動日数が多い傾向がある。

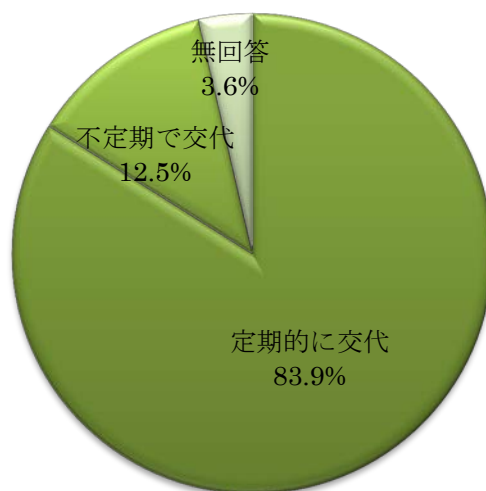
基礎項目6 基礎項目1で「2、NPO法人等の市民活動団体」及び「3、その他」と回答した団体の具体的な活動内容

回答
子育て支援
障害者自立支援
高齢者支援
介護事業
地域支援事業
市議会傍聴
公園緑地の雑木林保全活動
講習会

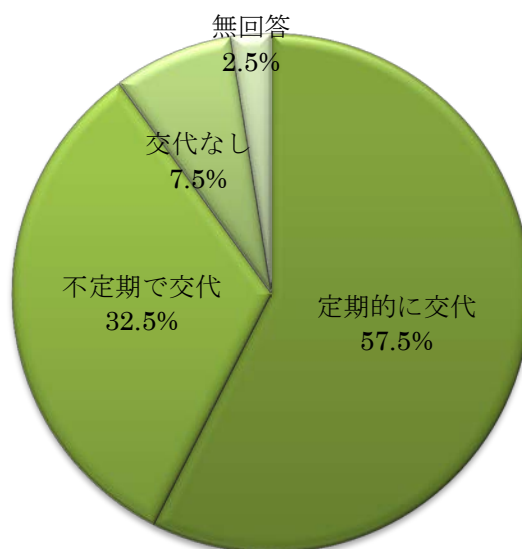
問1 貴団体では、役員の交代（変更）を行っていますか

選択肢	自治会	割合	市民団体	割合
定期的に行っている	47	83.9%	23	57.5%
定期的ではないが行っている	7	12.5%	13	32.5%
設立以来行っていない	0	0.0%	3	7.5%
無回答	2	3.6%	1	2.5%
合計	56	100%	40	100%

役員の交代（自治会・町会）



役員交代（市民活動団体）

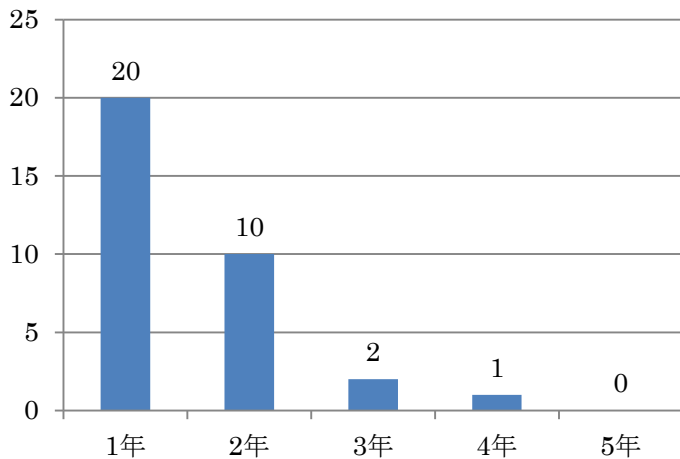


- 全体の90%以上の団体が役員交代を行っている。
- 自治会・町会の方が、市民活動団体と比較して、定期的に役員交代が行われている割合が高い。

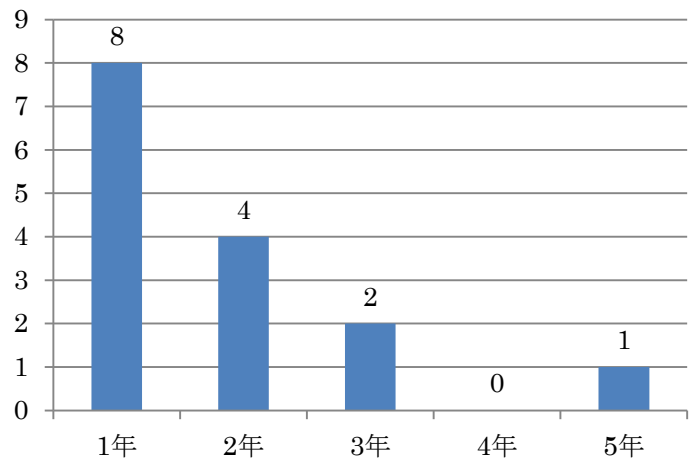
○役員交代の頻度について

	自治会	市民団体
1年に1度	20	8
2年に1度	10	4
3年に1度	2	2
4年に1度	1	0
5年に1度	0	1

(団体) 自治会・町会



(団体) 市民活動団体

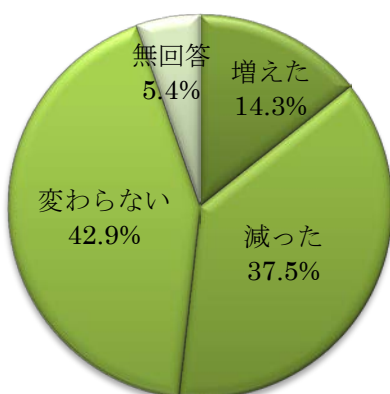


●定期的に役員交代を行っている団体のうち、自治会・町会は約9割、市民活動団体は約8割が1年または2年以内に役員交代を行っている。

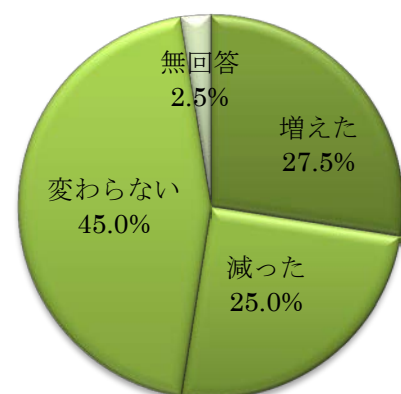
問2 会員数の増減

選択肢	自治会	割合	市民団体	割合
増えた	8	14.3%	11	27.5%
減った	21	37.5%	10	25.0%
変わらない	24	42.9%	18	45.0%
わからない	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	5.4%	1	2.5%
合計	56	100%	40	100%

会員数の変動 (自治会・町会)



会員数の変動 (市民活動団体)

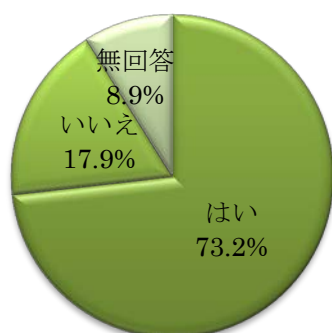


問3 現在の会員数を増やしたいとお考えですか

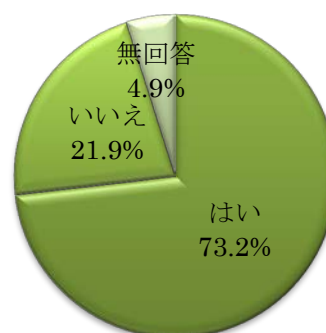
○全回答

選択肢	自治会	割合	市民団体	割合
はい	41	73.2%	30	73.2%
いいえ	10	17.9%	9	21.9%
無回答	5	8.9%	2	4.9%
合計	56	100%	41	100%

会員数を増やしたいと考えているか？（自治会・町会）



会員数を増やしたいと考えているか？（市民活動団体）



○問2で会員数が「増えた」と回答した団体のうち、会員数を増やしたいと考えているか

選択肢	自治会	市民団体
はい	7	10
いいえ	1	1
無回答	0	0
合計	8	11

○問2で会員数が「減った」と回答した団体のうち、会員数を増やしたいと考えているか

選択肢	自治会	市民団体
はい	20	7
いいえ	0	3
無回答	1	0
合計	21	10

○問2で会員数が「変わらない」と回答した団体のうち、会員数を増やしたいと考えているか

選択肢	自治会	市民団体
はい	14	13
いいえ	9	5
無回答	1	0
合計	24	18

●自治会・町会及び市民活動団体ともに約75%の団体が会員数を増やしたいと考えている。

問3 現在の会員数を増やしたいとお考えですか

【自治会・町会】（※増×：増やしたくない）

会員数	意向	理由
増えた	増やしたい	新しい会員を増やし自治会活動を活性化させたい
		新しい家が建ち、地域に来られた方々に、参加して、地域の輪の中に入ってほしい
		建て売り住宅などが建設される中で、会員数は増える傾向にあるため
		お年寄りの方を思えば、一人暮らしの方は特に自治会で把握することで孤独死から守ることが出来ると思う。また、若い方達、子育て世代の人達ともつながりがあることにより事故等から守ることもある。特に自治会では、防犯・防災も活発なので住民の方達より入会したいと言う事も良くあるため
		防犯・防災活動を地域一体となって進めていく為には、必要な事
		住民同士の交流・親睦を深めていくためにも転入者には会員となって欲しい
	増×	町内の方はほぼ入会しており、未入会者は何か問題があるので入会してほしくない
減った	増やしたい	年々会員数が減少するため
		空部屋が多くて用心が悪いことや、会の財政面から
		自治会活動を安定させるため（予算の確保）
		自治会内でも新規会員を増やしたいという多数の意見があるため
		当自治会は、任意加入ではなく、全世帯が加入することとなっているため
		顔を合わせる機会を増やし活性化させたい
		役員の担い手の確保や自治会予算を増やしたいが、世帯数が増えず苦しい状況
		年々会員数が減っており危機感がある
		現在入居者全員が会員。常識ある方の入居を待っている
		会費の増収、防災等情報伝達、補助対策の必要性、回覧板がまわらないなどの理由
		高齢化が進み、役員のなり手や活動が減少している
	現在の会員も高齢化し、若い人を増員したい	
増×	該当なし	
変わらない	増やしたい	地域の人間関係の交流。高齢者の見守りなどにより
		会員数を増やして、みんな協力しながら楽しい生活・活動をしたい。加入世帯数が1,000世帯中200世帯なので少ないと思う
		何軒かの新規入居者があり、自治会に加入してもらいたい
		加入率は現在96%ですが、100%が望ましい
		高齢化もあり、会員数が減少して行くと思われまます。地域力の低下を防ぎたい
		新しい住民の加入があまりなく、現会員の高齢化により役員の順番が回ってきても、若い方達は役員を引き受けられないといったことや、仕事が忙しく時間が取れないといった意見があるため
		数世帯の方が町会に未加入ですが、特に防災面で全世帯加入が望ましいと思う
		会員を増やし、相互の親睦を図り、地域の活性化を図りたいです

		町内住民の高齢化により、役員の業務ができない方が増えている。また、役員業務の負担感や体力的な点で町会を退会したいと言う方が増えているため
		自治会全体で取り組んだ方がいいと思う
		会員を増やしたいが、高齢者の入居が多くなっており、自治会への入会が進まないため
		会員を増やしたいと思う。地域内に戸建て等が増えており、連絡のためにも加入を期待
		家賃値上げ反対等の署名や、国会要請にも力を入れているので、会員の入会率は上がれば上がるほど住まいの運動に役立つ。また、名簿に載ることで見守り等してあげられることが増え、加えて、号棟委員などのボランティアも頼みやすくなります
		防災や助け合いのしくみ作りがスムーズにいかない。顔の見える関係が出来づらい状況
	増やしたくない	全世帯が自治会加入済みのため
		戸建て住宅が多く、現加入世帯で定着しうまく回っているため
		戸建て住宅地で居住者の増減はないため
		町内会に関わりたくないとの声が多く、会員のメリットが不明の声がある
		個人の事情により不参加はありますが、それを除いた自治会員はほぼ全戸参加している
		約550世帯を有する大きな自治会。これ以上増えたら手が回らない。新たに引越された方、新規開発で入ってこられる方は、この限りではない

【市民活動団体】（※増×：増やしたくない）

会員数	意向	理由
増えた	増やしたい	多くの意見、考え方が大事なため
		総合事業の受け皿としては、必然的に増加。移動困難者の潜在的人数は、将来増加する
		多様な人材確保のため
		持続的な活動を行うため
		登録利用者の依頼図書製作に、より迅速に答えるため
		地域の方に、活動を知り、理解を頂き、賛同してもらいたいため
		会員の年齢別構成で若手（60歳より入会可能）、特に男性会員の入会者が不足
	増×	記載なし
減った	増やしたい	管理組合の相互協力・支援が目的なので、加盟組合は多いほどレベルアップするため
		会の活動を広げたいため
		高齢化が進む多摩市において、私たちのめざす「安心して住み続けられる街づくり」を地域の中で生かしてゆくには沢山の人のつながって助け合ってゆくことが大切
	増×	活動機会の減少のため 会員数の増加に関わらず、内容の濃い活動ができるかどうかの方が重要と考えている
変わらない	増やしたい	より多くの人力を発揮していただく場づくりをしたいため
		会員高齢化のため若い人に入会してもらいたいです
		実務が出来る、新しい考えを持っている人材にて活性化を図るため
		活動を広げていくため
		利用者スタッフを増やしたいため
		メンバーが固定化しているため
		会員数が少なく、活動の担い手となる人材が不足しているため

増やしたくない	運営が安定しているため
	会員数を増やすことより活動そのものの質を向上させたいため
	NPO 法人として、対応できる事業件数（年間約 1 万件）をあまり超えない事業規模を保つて、質や安全面でのレベルを維持したいため
	団地単位のコミュニティ作りを目指しているため

問4 貴団体は、新たな担い手として期待される若い方の加入に向けて、団体として工夫している、またはされたことはあるか。それは、どのような方法か。

【自治会・町会】

会員	工夫
増えた	転入者宅を役員が訪問し、呼びかけや案内・チラシの配布を行っている 2 件
	誕生祝（出産祝）・一年生入学祝を新たに組み入れました
	転入居住者に対し、自治会として加入の声かけをしている。市役所においても転入者に対し、自治会の加入の呼びかけをして頂くとありがたいです
	イベントを増やしています
	今は何もしていませんが、自治体加入の手引きのようなものを作成しようと思っています
減った	入会のためのチラシを配布しています 3 件
	イベントの開催・入会の勧誘をしています 3 件
	自治会の活動状況等を作成し、各戸に配布しました
	2世帯の方には、若い人に世代交代をお願いしています
	朝のラジオ体操開催と、バザーの開催、週二回のパトロールの実施
変わらない	転入者宅を役員が訪問し、説明とチラシを配布しています 3 件
	役員候補者選考委員会の設立。自治会主催の「おまつり」を開催しています
	あいさつ運動・見まわり見守り・防災などで人を集めて協力し合っています
	地域行事への参加のお誘いなどを行っています
	老若男女を問わず働きかけています。日常活動の充実が基本です
	若い方は、仕事をもっているため、自治会としての活動事業は少なくする事を常に考えています
	お祭り時の集会所前での子ども向け模擬店を開いています（お祭り会場が遠いので）

【市民活動団体】

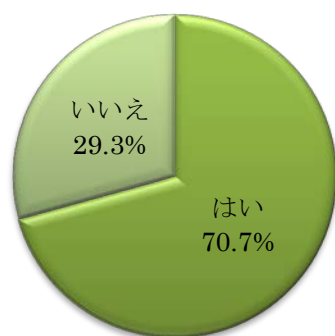
会員	工夫
増えた	口コミでの勧誘や、いろいろな会議を開催
	働き時間を短く、希望時間に合わせている
	講座で基本的な知識や考え方を学ぶと同時に実習を活動場所で行い、活動している会員との交流の場を設けている
	毎年養成のための講習会を開催
	法人通信を取引先関係機関に毎月配布
	世界選手権等の選手・コーチへの派遣補助などや、講習会を開催
	常に地域に開かれた場として活動し、全国のつながりある団体と交流
	過去には担当を決め新規会員の入会促進（チラシ活用）や会員の口コミ作戦による勧誘。現在は軽スポーツ（グラウンドゴルフ大会など）への参加を呼びかけ入会者を募っている
減った	開催するゼミナールや講座に参加する人に声をかけ
	会員の友人・知人に紹介を依頼
	各種企画を実施
	イベントを開催
変わらない	できる範囲で活動に参加できる形態をとっている。会員の特技などを活かせる場づくりの工夫
	他団体との交流を図っている
	会員からの直接勧誘を行うことや、その他イベントへ来ていただいている
	HPの開設や充実を図っている
	プロボノを利用しマーケティング調査を実施する予定
	大学のゼミとの協力
	常にHPにて情報公開、各イベントへ参加し、パンフレットの配布など、他のマスメディア、新聞折り込みを利用
	文化活動に若い人達が興味を持ちそうなものを多く取り入れるように工夫
	講習会を開催し、その際にサークルの活動を紹介し、会員の募集

問5 貴団体は会員数を充実させるために会員の募集活動を行っているか

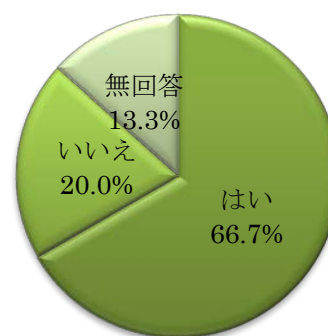
○全回答

選択肢	自治会	市民団体
はい	29	20
いいえ	12	6
無回答	0	4
合計	41	30

募集活動の有無 (自治会・町会)



募集活動の有無 (市民活動団体)



○問2で会員数が「増えた」と回答した団体のうち、会員の募集活動を行っているか

選択肢	自治会	市民団体
はい	6	6
いいえ	1	2
無回答	0	2
合計	7	10

○問2で会員数が「減った」と回答した団体のうち、会員の募集活動を行っているか

選択肢	自治会	市民団体
はい	12	4
いいえ	7	1
無回答	1	2
合計	20	7

○問2で会員数が「変わらない」と回答した団体のうち、会員の募集活動を行っているか

選択肢	自治会	市民団体
はい	11	10
いいえ	3	3
無回答	0	0
合計	14	13

●自治会・町会及び市民活動団体の約7割が会員の募集活動を行っている

【自治会・町会】

○募集活動において具体的な工夫を行っている

会員	具体的な募集活動内容
増えた	転入者に向けた勧誘活動 2件
	役員が家庭訪問し自治会活動概要を書いた印刷紙を持って直接説明し加入の呼びかけ
	チラシの配布
減った	チラシを配る（未加入の世帯へ）
	未加入宅への勧誘チラシのポスティングの実施
	年度始めに入会の案内を持って訪問。途中で引っ越して来た方にも入会案内を持参
	役員が各家庭を訪問
	班長が年会費集金時未加入世帯に対する声かけ
	引越してきた方へ、個人的に声かけ
	引越してきた時に多少時間をおいてから役員が訪問して勧誘
変わらない	新築の集合住宅の管理会社への働きかけ
	広報（自治会新聞）で呼びかけ
	新規入居者へは自治会の案内
	一戸建の新住民への募集活動
	担当役員が自宅を訪問して説明
	新年度になった時、お誘いの手紙をポストに入れ、会えた時には話す
	自治会の掲示板へのポスター掲示の折に
	未加入の家庭への加入依頼文配布。自治会組織内の子供会、老人クラブ等への話題提供にて呼びかけ

○募集活動を行っていない理由

会員	募集活動を行っていない理由
増	団体としてどのように募集をしたらよいかを考え中
減った	団地入居者は全員自治会員であり、転入者は転入後すぐに自治会員となるため 3件
	自治会活動は、仕事が次々とあるので、こなすのは忙しいため
	活動内容を検討中です
	新規の住宅が増えていないため
変わらない	特に募集の必要は（小さな町会なので）感じません
	今まで役員が入会を勧めたが、拒否されているため

【市民活動団体】

○募集活動において具体的な工夫を行っている

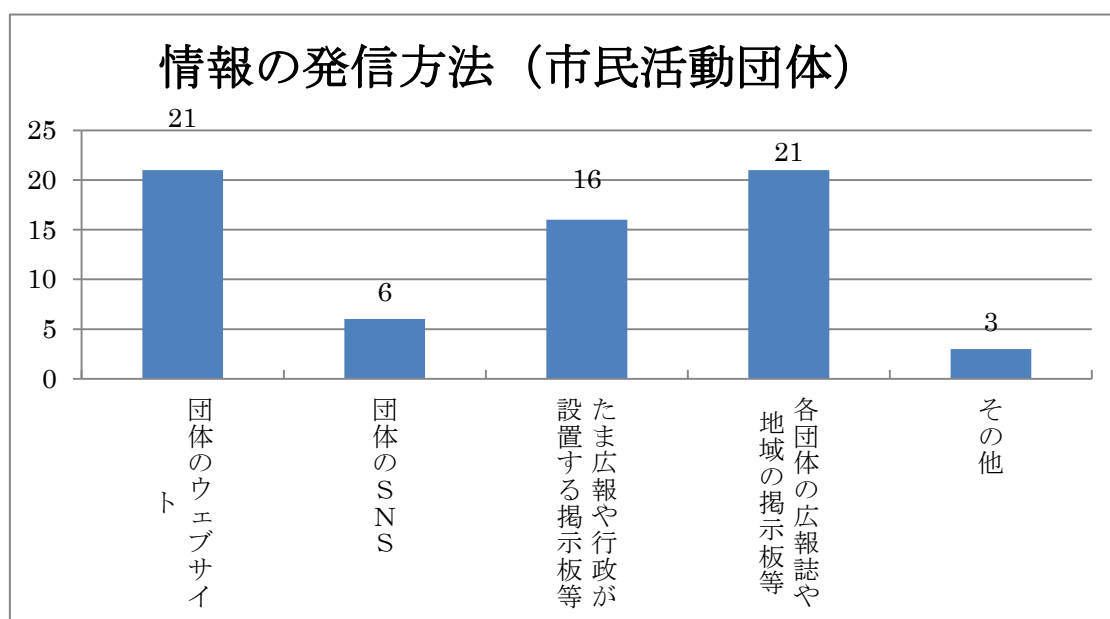
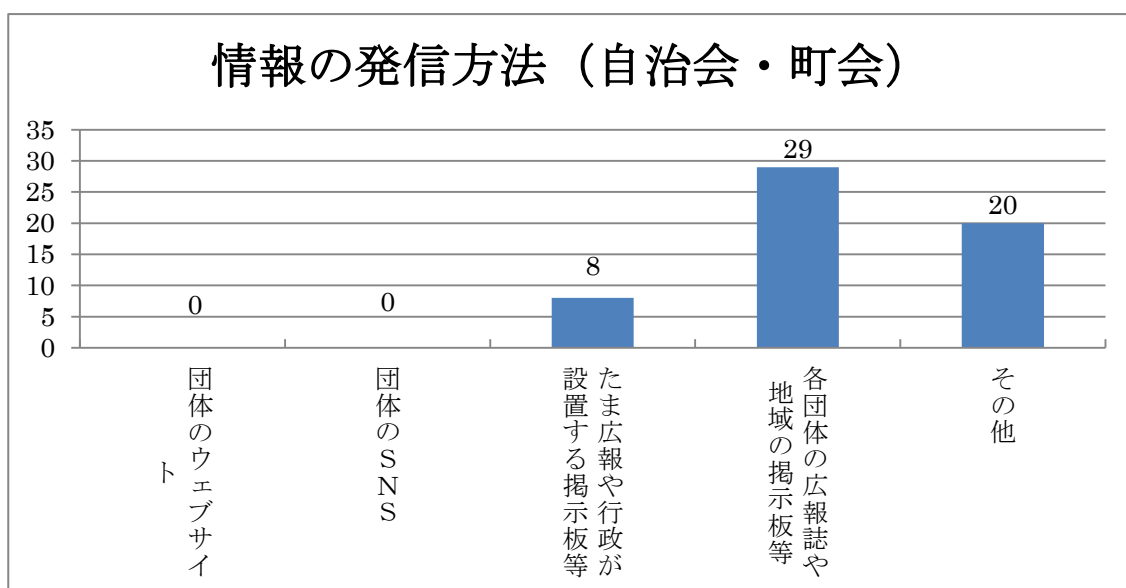
会員	具体的な募集活動内容
増えた	広報、いろいろな会議でのPRを行っている
	チラシの配布、口コミ、連携する福祉団体との情報交換
	講座の修了者を会員として勧誘
	ホームページに掲載
	毎月発行している法人通信へ掲載
	定期的に開催するフェスティバル告知等で募集活動
	入会希望者に向けて、毎月1回開催している月例会に出席してもらい、活動内容を理解（興味をもたせる）してもらう。希望する諸活動（カラオケ大会等）に参加呼びかけ
減った	入会案内のチラシを作っており、イベントなどで配る。HPで入会案内を行っています
	ホームページや地域デビュー手引書への掲載
	呼びかけ主体で募集活動
	タウン紙に広告を掲載している。また、行事などにパンフレットやチラシを置いている
	毎年10月～11月を拡大月間と位置づけ募集活動を行っている。その他健康まつりや地域での青空健康チェック、サークル、懇談会などを催している
変わらない	ホームページの活用
	定期発行のニュース（新聞）でイベントへの参加募集
	公民館掲示板へ掲載し、同じ趣味を持つ仲間の勧誘
	活動を体験してもらおう。また、会員が身近な人に声かけ
	他団体、異業種団体や企業、事業者への交流会の呼びかけ。活動や事業を通して、相互乗り入れを行い、興味のある人たちを発掘している。また、活動内容によっては、人的交流や研修を実施して次へつなげている
	年に4回発行している広報紙への募集記事掲載及び自団体HPへの掲載などを行っている
	毎月のニュースに載せている
	広報誌や階段掲示で募集活動
	機会のあるごとにサークル紹介や会員募集のチラシを配布

○募集活動を行っていない理由

会員	募集活動を行っていない理由
増えた	人との紹介等で加入する方がほとんどのため
	会員で成り立っているわけではないので、あえて会員募集はしていない
減	記載なし
変わらない	手が足りないため
	不定期に行われる為、都度募集
	様々な地区の人達が会員として参加しているので、みな口コミで入会しているため

問6 貴団体の活動等に関する情報の発信方法について、当てはまるものすべてに○印をご記入ください
(複数回答有)

選択肢	自治会	市民団体
団体のウェブサイト	0	21
団体のSNS	0	6
たま広報や行政が設置する掲示板等	8	16
各団体の広報誌や地域の掲示板等	29	21
その他	20	3
総回答団体数	44	32



・その他の発信方法

自治会・町会	回覧板	14件
	総会資料の配布	
	各印刷物	
	独自に書面を作成	
	町内会紙	
	レクレーション	
	班長回覧、班長会議	
市民団体	パンフレット	
	各庁・県サイト	
	チラシ配布	

問7 問6でお答えいただいた以外の情報発信等の方法について、何か行っている工夫

【自治会・町会】

工夫	
自治会の広報誌を定期的に発行し、自治会の取り組みなどを全世帯に伝えている	2件
住宅内に独自の掲示板が3ヶ所あり、そこに情報を発信	
必要に応じて印刷物の配布や各月一回の広報誌とイベント等のお知らせ配布	
年2回程度、自治会行事の広報誌を配布及びたま広報のウェブサイト等に載せている	

【市民団体】

工夫	
チラシの配布	3件
関係団体のネットワークを活用してイベントの企画運営を行い、チラシ等を発行して発信	
イベントに参加した際に団体紹介のチラシの配布や直接声かけによる会員募集	
地域情報誌「もしもし新聞」に有料広告を掲載	
フェイスブックを活用	
各団体、施設、事業所を訪問し、活動内容を案内する。市内の大学や高校、小中学校へのアプローチを大切にしています	
講座・イベント掲示等を通じて、活動の紹介	
図書館等での講習会開催により情報を発信	

問8 現在市民活動等に参加していない市民の方について、どのようなきっかけ等があれば市民活動に参加していただけたと思いますか

【自治会・町会】

複数意見	自分に役立つ活動・メリットがある・参加して良かったと思えるような活動	4件
	魅力ある市活動であれば、自然に市民が参加する	4件
	自治会主催の行事（防災訓練、清掃、お祭り等）への参加	3件
	広報活動の普及（市民活動の理解不足）	3件
	高齢化に伴う健康増進に関する活動	2件
	参加するためのハードルを下げ無理なく参加できる行事等の企画と参加の呼びかけ	2件
その他の意見	入会しなくても災害等は、行政が助けてくれるとの返事が多い為、災害以外の内容説明をしている	
	市民活動と身の周りが楽になることを結びつける必要がある	
	目的や意義を理解してもらう事が大事、市民活動の具体的な仕事内容、ボリューム等を明確に知らせる事も重要	
	知っている人がいるか否かが大きなウェイトを占めていると思う。今年開始したが、自治会役員経験者（ここ2～3年の人）有志で、知人を増やす目的で懇親会を開催	
	人それぞれにきっかけは違う	
	その人によって興味・関心のベクトルが違うと思うので、できるだけ色々な分野の行事を催すことで一人でも多くの初めての方が足を運んでくれれば。具体的には、夏祭り、防災訓練、映画会、居酒屋、グランドゴルフ、菜園、バスハイク等のイベント	
※日頃悩んでいる事であり、良い事例があれば是非教えて欲しい		

【市民活動団体】

複数意見	活動に参加することで、楽しさ・やりがいなど体験して興味を持ってもらう	4件
	参加するためのハードルを下げ無理なく参加できる行事等の企画と参加の呼びかけ	2件
	自治体を中心または協働してイベント等を開催	2件
その他の意見	必要な時に、人はつながると思うので、つながりたい時に調べられたり、相談できる場があると良い	
	参加するとお土産があるといったようなメリットを付ける	
	市民活動を紹介する定期的な展示場所（市民パワースポット）の開設、市民・行政協働力パワースポットマップのようなものを作成したり、市民活動がゼロからわかる講座企画を実施	
	人それぞれにきっかけは違う	
草の根的な活動（ex. 市民清掃デー）から上手に引き込む仕組みづくりがあると入り易いのではないかと		

問9 自治会・町会や市民活動団体が活動を継続していく上での提案やご意見等

【自治会・町会】

複数意見	役員等の負担を減らし、活動しやすい体制	5件
	市からの助成や、広報活動等の支援が必要	4件
	防災訓練とか見守りとかに責任をもって取り組む事も大切	2件
その他の意見	担い手の発掘・育成	
	個人が生活していく上で、自治会活動やボランティアが楽しいと知ってもらえる事ができたらよい	
	それぞれが知人となるよう各種イベントを利用していくことだと思う	
	大きな団体で強力なリーダーシップのある人がいる方が結果的にはまとまると思う	
	土日祝日の近隣の集会所、会議室の利用のし易さ（予約、料金）が必要です	
	市に対して質問や要望をする際に窓口がありすぎて困る	
	高齢を理由に脱会する人が増えているので対策がほしいです	
	自治会活動もボランティア活動なので、役員になってくれる方が少なく、役員の確保が最大の課題	
“自治”なので、一人でも多くの方が複数で支え合うよう意識してもらおう努力をしていきたい		

【市民活動団体】

複数意見	市からの助成や、広報活動等の支援が必要	3件
	他団体を知る。他団体と連携し活動の幅を広げる	3件
	活動内容をオープンにする。情報発信等の工夫や仕組みが大事	2件
その他の意見	強制はしないこと、高い会費を取らないこと	
	おおらかにゆっくり参加すると長く継続できると思う	
	市民祭等の活動発表の場を設けてみてはどうか	
	継続予算の確保が必要	
	出来るだけ複数で、任務分担し、片寄らない様な運営が望ましい	
	行政の下請けなどにならないこと	
	友達や知人づくりに役立つことなどのことが重要	

2. 団体向けポイントガイド

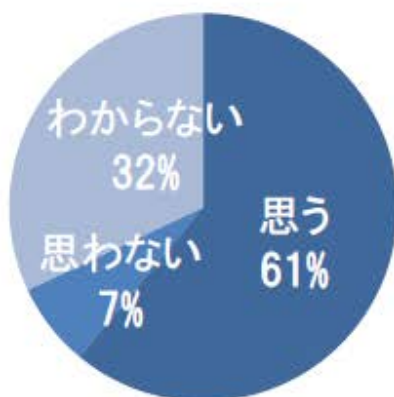
地域活動「団体運営」のポイントガイド

～『気づき』と『きっかけ』の仕掛けづくり～

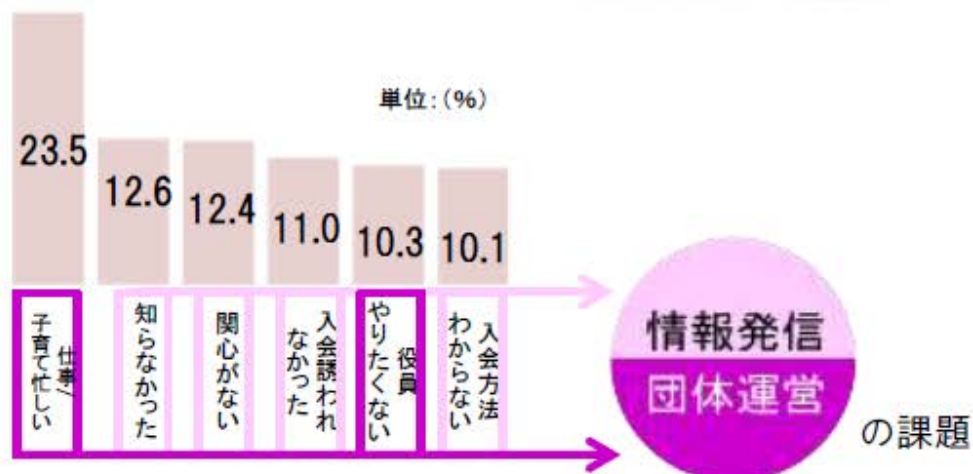
～市民が地域のことに関わろうとするまち多摩の実現に向けて～
第六期多摩市自治推進委員会報告書別冊

*平成29年実施の「地域活動に関する市民参画アンケート」及び「自治会・町会及び市民活動団体へのアンケート」結果より抜粋（詳細は報告書巻末資料編参照）

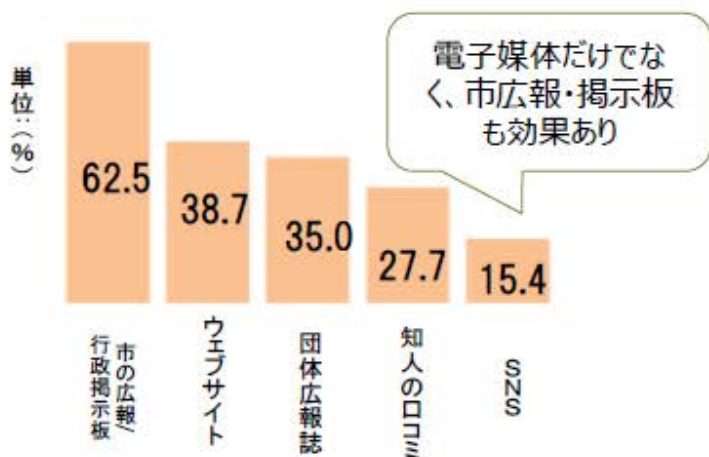
Q1)参加してみて、活動が人や地域のつながりに寄与していると思うか



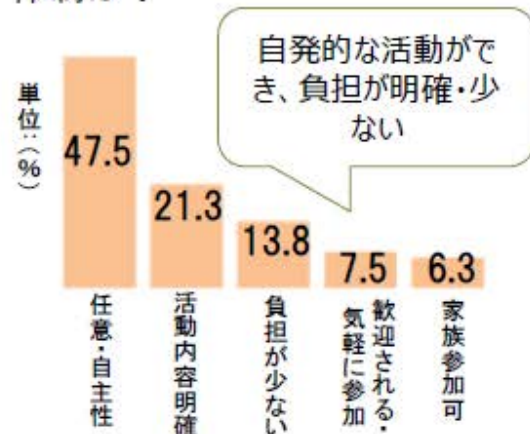
Q2)一方、参加しない理由は？



Q3)市民の情報収集方法は？



Q4)望ましい活動体制や受け入れ体制は？



「団体運営」ホ ～情報発信と団体運

参加者のステップ

STEP 01 知る、気づく

活動に「気づく」。
活動内容に関心をもつ。

STEP 02 試しに参加

活動場所に訪れる。
イベントに参加する。

運営側の工夫



情報発信

活動対象となる市民に届く情報発信ができていますか

- ニーズを調査していますか？
- 情報発信のターゲットは明確ですか？
- 紙のチラシとSNSを使い分けていますか？

情報発信

参加しやすい「きっかけ」をつ

- 注目や興味を喚起す
- 活動の内容は明確に
- 気軽に参加できる雰

ポイントは？

運営の工夫～



する

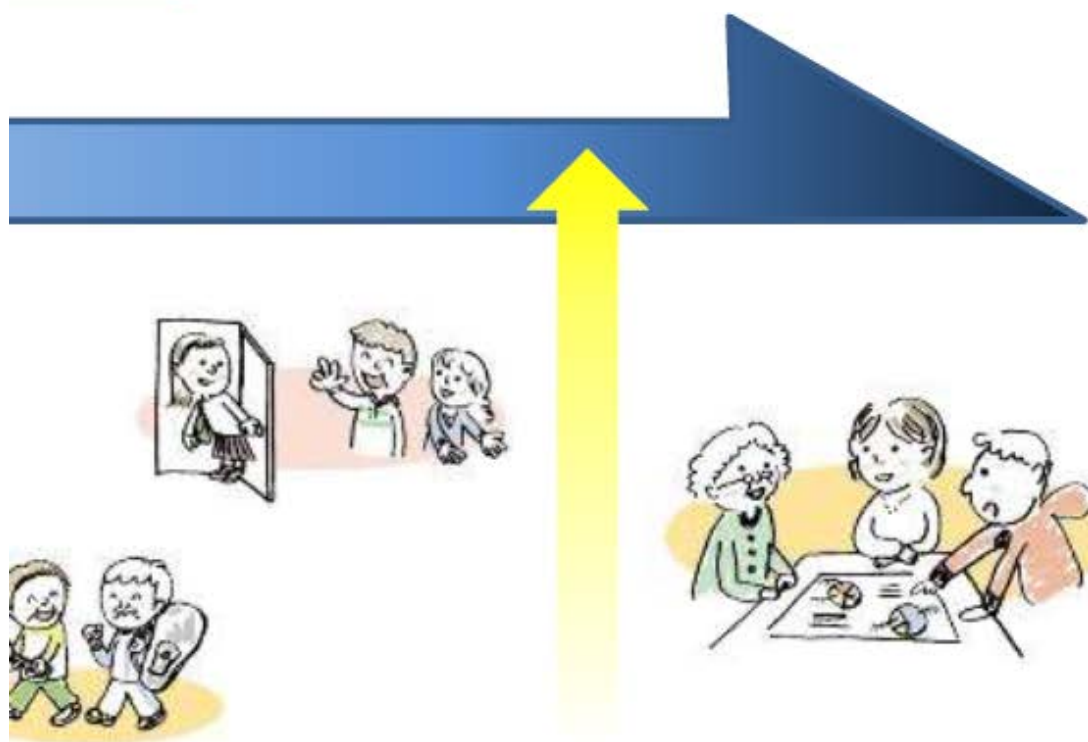
STEP 03 継続的に参加する

活動が楽しい。
友達を誘う。

STEP 04 運営に携わる

意思決定にかかわる。
運営に対する意見を言う。
団体の運営に関与する。

活動の担い手が増え、
地域活動が活発になる



団体運営

関わっていますか
 情報発信ができていますか？
 なっていますか？
 団気作りができていますか？

団体運営

関わりやすい活動になっていますか

- 内輪な活動や会話になっていませんか？
- 役員や役割を強制していませんか？
- 負担が誰かに集中していませんか？

より参加しやすい団体の特徴

- ・参加者の声が運営側に届く
- ・自分で決められる
- ・参加して楽しい
- ・参加して良かった
- ・多様なかかわり方
- ・同じ人ばかりではない
- ・気軽な参加形態
- ・強制しない
- ・PRが魅力的



結果

- ・興味をもって声をかけてくれる人が増えた
- ・会を代表して意見を言う機会が増えた
- ・活動団体間でのネットワークが広がった

〇〇
年後

- ・地域のことに関わろうとする市民が増え、市民の意見が市政に反映される住みやすい街になる



イラスト：田口 桃代©

編集：第六期多摩市自治推進委員会
和田 清美、西川 正、小城 昭根、島野 泉、高澤 愛、富田 治

発行：多摩市企画政策部企画課
〒206-8666 多摩市関戸6-12-1

平成30年11月発行

